



Guitar Rig 5



オペレーション マニュアル



この説明書に含まれる情報は、予期せぬ変更を含み、Native Instruments GmbH の側で責任を代理するものではありません。この説明書によって記述されるソフトウェアはライセンス同意を必要とし、他の媒介に複製してはなりません。Native Instruments GmbH が事前に書面で許可しない限り、どのような目的においても、この出版物のいかなる部分も複製、複写、またはその他の方法での伝達や記録することは許されません。全ての製品・会社名は各所持者の登録商標です。加えて、これを読む人は、このソフトを正規に購入したものであるとします。お客様のおかげで私達はより良いツールを製作していくことが可能になるので、ここに謝辞を惜しむものではありません。

“Native Instruments”, “NI” and associated logos are (registered) trademarks of Native Instruments GmbH.

Mac, Mac OS, GarageBand, Logic, iTunes and iPod are registered trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Windows, Windows Vista and DirectSound are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

All other trade marks are the property of their respective owners and use of them does not imply any affiliation with or endorsement by them.

著作・校正: Jeffrey Fisher

資料バージョン: 1.0 (06/2011)

製品の向上とバグ報告に関ったベータテスト参加者に特別な感謝をささげます。

Germany

Native Instruments GmbH
Schlesische Str. 29-30
D-10997 Berlin
Germany
www.native-instruments.de

USA

Native Instruments North America, Inc.
6725 Sunset Boulevard
5th Floor
Los Angeles, CA 90028
USA
www.native-instruments.com



© Native Instruments GmbH, 2011. 無断複写・転載を禁じます。

目次

1	イントロダクション	8
1.1	本マニュアルについて	8
1.2	安全上の注意事項	9
2	ユーザーインターフェイス	10
2.1	グローバル ヘッダ	10
2.1.1	インプットとアウトプット	11
2.1.2	システムパフォーマンス	11
2.2	ライブビュー	12
2.3	ツールバーとラック	13
2.4	Virtual Rig Kontrol	15
2.5	SideKick	16
3	コンポーネントとラック	19
3.1	ラックの構築	19
3.1.1	コンポーネントプール	20
3.1.2	アンプの設定	20
3.1.3	ラック構築の基本	22
4	プリセットの活用	25
4.1	プリセットブラウザ	26
4.1.1	タグとプリセットリスト	27
4.1.2	検索エンジン	28
4.1.3	ラックプリセットのロードと保存	29
4.1.4	プリセットのインポート	29

4.1.5	プリセットのエクスポート	29
4.1.6	新規ラックプリセットの保存	29
4.1.7	3 段階のタグ	31
4.1.8	プリセットのタグ処理	32
4.2	プリセットインフォページ	33
4.3	コンポーネントプリセット	34
4.3.1	ベーシック	35
5	ラックツール	39
5.1	テープデッキプレ (Tapedeck Pre)	39
5.1.1	再生	39
5.1.2	録音	40
5.2	テープデッキポスト (Tapedeck Post)	40
5.2.1	テープデッキプレの使用方法	41
5.2.2	オーバーダブ	41
5.3	チューナー	42
5.4	メトロノームと同期	43
5.5	プリセットボリューム	44
5.6	Master FX	45
6	Rig Kontrol	47
6.1	Rig Kontrol の起動	47
6.2	Rig Kontrol への機能のアサイン	48
6.3	アサインの設定	49
6.4	外部コントローラーへの機能のアサイン	51

7	ホスト内で Guitar Rig を使用する。	52
7.1	ベーシック	52
7.1.1	オーディオと MIDI の設定	52
7.1.2	プラグインロケーション	52
7.1.3	ギター、またはベースとラックの設定	52
7.1.4	同期(Synchronization)	53
7.1.5	トータルリコール	53
7.2	各パラメーターのオートメーション	53
7.2.1	オートメーション リスト(Automation List)	53
7.2.2	Apple Logic Pro 内でのパラメータのオートメーション	54
7.3	Sidechaining	54
8	オプション	56
8.1	コントローラー	56
8.1.1	外部 MIDI コントローラーの設定	57
8.1.2	コントローラーへの機能のアサイン	58
8.1.3	外部 MIDI コントローラとバーチャル Rig Kontrol をリンクする	60
8.1.4	MIDI コントローラーと Rig Kontrol コントロール用 ホールドモード ...	60
8.2	環境設定 (Preferences)	61
8.2.1	Rig Kontrol 1 サポート	63
9	メニューバー	65
9.1	File (ファイル)	65
9.2	Edit (編集)	66
9.3	View (ビュー)	66

9.4 Help (ヘルプ)	67
10 オーディオと MIDI の設定	68
10.1 Audio (オーディオ)	68
11 キーボードショートカット	71

1 イントロダクション

GUITAR RIG 5 アプリケーションマニュアルへようこそ。

1.1 本マニュアルについて

本マニュアルでは GUITAR RIG 5 の各部詳細について解説しています。ソフトウェアの詳細を確認するには、このマニュアルを参照してください。

他にも以下の資料があります。

- セットアップガイドでは GUITAR RIG 5 のインストール、起動、設定について解説しています。
- **Getting Started** ガイドでは、GUITAR RIG 5 の主な使用方法をご説明します。
- アンプコントロール用各ノブ、ディストーションペダル、GUITAR RIG のサウンドを調節する為のコンポーネントの解説は、コンポーネントリファレンス(**Components Reference**) を参照してください。
- GUITAR RIG 5 をハードウェアバンドルとして購入した場合は、ハードウェアリファレンス (Hardware Reference) を参照して RIG KONTROL 3 の設定方法を確認してください。

全てのマニュアルは *Help > Open Manual* と進んで参照することが可能です。

<http://www.native-instruments.com/forum> のコミュニティーフォーラムで Native Instruments 製品に関する情報を閲覧、収集することも可能です。

資料の注釈について

本資料では、特定表記専用フォントを使用して特記事項や、危険事項について解説しています。以下の各アイコンで、特記事項内容を区別しています。



このアイコンの後に表記してある内容には、必ず従ってください。



この電球アイコンでは有効なヒントとなる内容を記載してあります。ここではしばしば機能をより効率よく使用するための解決策が記載されていますが、必ずこれを実行しなければならないという内容ではありません。作業効率を図るためには一度確認しておくことをお勧めします。

更に、以下の書式を使用する場合があります。

- 各メニューで表示される内容 (*Open...*、*Save as...* 等) 及び、ハードドライブ、またはその他の記録媒体のパスはイタリックで表示されます。
- スクリーン各部で表示されるテキスト (ボタン、コントロール部、チェックボックス脇のテキスト等) は **ライトブルー** で表示されます。この書体が使用されている場合、同じテキストをスクリーン上で確認できるはずですが。

- 重要な名称とコンセプトはボールド体で表示しています。
 - コンピュータのキーボード上で操作する場合はそれらのキーワードを括弧で示します (例、"[Shift] + [Return]").
- ▶ インストラクションの始めには、それぞれ再生ボタンのような矢印マークが添えてあります。
→ 操作の結果を示す場合、小さな矢印が添えられます。

1.2 安全上の注意事項

GUITAR RIG 5 はヘッドフォン、またはアンプシステムと併用する為、聴覚に障害を及ぼすアウトプット音量を生成する場合があります。過度な音量による再生を防ぐ為、GUITAR RIG 5 を使用する際には全ボリュームをまず最小値に絞ってから使用をはじめると強く推奨します。その後、音量を最適な音量に設定してください。聴力低下や耳鳴りがおさまらない等の症状が現れた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

2 ユーザーインターフェイス

以下の各セクションで GUITAR RIG 5 のユーザーインターフェイス について確認してください。



Standard ビューの GUITAR RIG ユーザーインターフェイスです。

2.1 グローバル ヘッダ

グローバルヘッダ (スタンダードビュー、ライブビューの両方で表示します) でメインインプット、アウトプットコントロールと、GUITAR RIG 5 のシステムパフォーマンスディスプレイを操作します。



GUITAR RIG のグローバルヘッダです。

これらの他に、グローバルヘッドには **LIVE** ボタンがあります。このボタンでライブビューを起動し、ライブ使用時に適した各部を表示します(セクション [↑2.2, ライブビュー](#) 参照)。

2.1.1 インプットとアウトプット

左から以下のグローバルインプットとアウトプットコントロールを備えています。

- **L/R** ボタンでソフトウェアのインプットルーティングをコントロールします。デフォルトでは両方のチャンネルにルーティングしてあります。片方のチャンネルを無効にすると (ボタンをクリックするとライトが無灯の状態となります)、もう一方のチャンネルのシグナル (モノシグナル) が GUITAR RIG のステレオチャンネルの両方にルーティングされます。ギター、またはベースを使用する際にこのルーティング方法を使用することを推奨します。
- インプットメーター (**IN**) で入力シグナル音量を表示し、付属のボリュームフェーダーでソフトウェアのインプットボリュームをコントロールします。最適な音量設定を行うには、インプットメーターの赤表示部分に限りなく近づき、歪みを防ぐ為に赤部分に音量が到達しないように調整してください。
- ゲート (**Gate**) ボタンでノイズゲートを起動し、演奏していない間のヒスノイズに対応します。ボタンをクリックして有効/無効化し、右にあるノブでスレッシュホールドを調節します。
- **Learn** 機能で自動的に最適なスレッシュホールドを設定することも可能です。スレッシュホールドノブをダブルクリックし、何秒か楽器を演奏しないでください。その間 GUITAR RIG 5 はシグナルを分析し、余計なノイズを省くスレッシュホールド値に自動設定します。
- アウトプットメーター (**OUT**) でソフトウェアのアウトプット音量を表示し、内蔵ボリュームフェーダーでアウトプットレベルをコントロールします。アウトプットメーター (Output Meter) がオレンジエリアに到達しないように調整すると、リミッターの起動を避けることができます。
- リミッター (**Limit**) でアウトプット音声の歪みや、過大な音声出力を防ぎます。ボタンをクリックしてこの機能を解除することも可能で、音声の歪みを表示する赤色 LED が点灯します。

2.1.2 システムパフォーマンス

右端のセクションではシステムのパフォーマンスに関する情報を表示します。

- **CPU** ロードは常時計測、表示され、音声への支障を避けるには 70% を超えないようにしてください。
- 使用する各コンポーネント数を削減せずに **CPU** パワーを節約するには、**HI** ボタンを押して高品質モード (High Quality Mode) を無効にします。高品質モードは、オーバーサンプリングを用いて現在のサンプリングレートを倍にし、音声の解像度を向上させる機能です。
- **Power** ボタンをクリックして (**CPU** 表示部が **BYP** と表示されます) GUITAR RIG 8 上の音声を完全にバイパスします。
- オーディオドライバを選択していない場合は、**CPU** は **OFF** と表示されます。

- CPU オーバーロードが生じると、ディスプレイが **OVER** と表示され、Power ボタンが赤く表示され、オーディオエンジンが停止していることを示します。この場合、いくつかのコンポーネントを無効にするか、高品質モードをオフにし、CPU パワーを節約する必要があります。この後、Power ボタンをクリックしてオーディオエンジンを再起動してください。

2.2 ライブビュー



GUITAR RIG の Live ビューです。

グローバルヘッダの **LIVE** ボタンをクリック、または [F1] を押してライブビューへと表示を切り替えます。この動作でラックを隠し、ライブ使用時に重要なパフォーマンス機能を表示します。

Live ビューは以下の機能を備えたステージ使用専用モードです。

- グローバル ヘッダ
- プリセットブラウザではカレントプリセットリスト (Current Preset List) が設定された状態となります。
- 現在選択しているプリセットとその情報です。
- メトロノーム、チューナー、ループ・マシン(オプション)
- 全てのアサインを表示するバーチャル Rig Kontrol ディスプレイ

メトロノーム、チューナー、ループ・マシン

METRONOME、**TUNER**、**LOOP MACHINE** と表示された各ボタンをクリックして各ライブビューオプションを起動します。コントローラーインプットを介してチューナー (Tuner) を操作すると自動的にチューナー画面が表示されます。

2.3 ツールバーとラック

Live ビューを使用している場合は、**LIVE** ボタンをクリックして通常の表示画面に切り替え、GUITAR RIG 5 ユーザーインターフェイスの解説を続けます。



ラックのツールと Virtual Rig Kontrol です。

ツールバー はラックの最上部にあり、全てのラックのツールと、その他に頻繁に使用する機能を備えています。

- 左端のボックスでは現在起動しているラックプリセットを表示します。 リストが表示されていない状態でも、上下矢印をクリックして現在のプリセットリストを移動することが可能です。
- **Save** でプリセットの変更内容を上書き保存します。 ファクトリープリセット、ユーザープリセットを区別して保存することが可能となりました。

- **Save as** で現在の設定を新規保存します。Save as をクリックすると、SideKick 内の Save As ページが表示され、ここで名称、プリセット作成者名称、評価、備考を入力し、プリセット内容と共に保存します。Save をクリックする前にプリセットブラウザの上部のタグを変更しなければ、そのままタグの内容が全て保存されます。
- 中央のボタンで Virtual Rig Kontrol (↑2.4, [Virtual Rig Kontrol](#) 参照) とテープデッキプレ (再生用)、テープデッキポスト (録音用)、チューナーとメトロノーム、PRST (プリセットボリューム)、MSTR FX (Master FX) の全ラックツール表示を切り替えます。セクション ↑5, [ラックツール](#) を参照してラックツールの詳細を確認してください。
- 右側の x マークでラックの内容を削除します。プログラムメニューの [Edit > Undo](#) または [Ctrl]+[Z] (Win) / [Cmd]+[Z] (Mac OS X) で削除した内容を復元することも可能です。
- - (マイナス)をクリックすることで、全ラックを最小化します。+ (プラス)をクリックすると、以前の表示内容を復元します。

ラックにはサウンド構築に必要な全てのコンポーネントを備えており、それらは非常に見やすいデザインとなっています。ここは GUITAR RIG 5 機能の心臓部となっており、ドラッグアンドドロップによる快適な使用が可能です。セクション ↑3, [コンポーネントとラック](#) で詳細を確認してください。

2.4 Virtual Rig Kontrol

Virtual Rig Kontrol を表示するにはツールバーのボタンをクリック、または F3 を押します。ここは RIG KONTROL フットコントローラーをコンピュータ上で表示する画面で、各ボタンやフットペダルにどの機能をアサインしたか確認することができます。セクション ↑6, [Rig Kontrol](#) で詳細を確認してください。

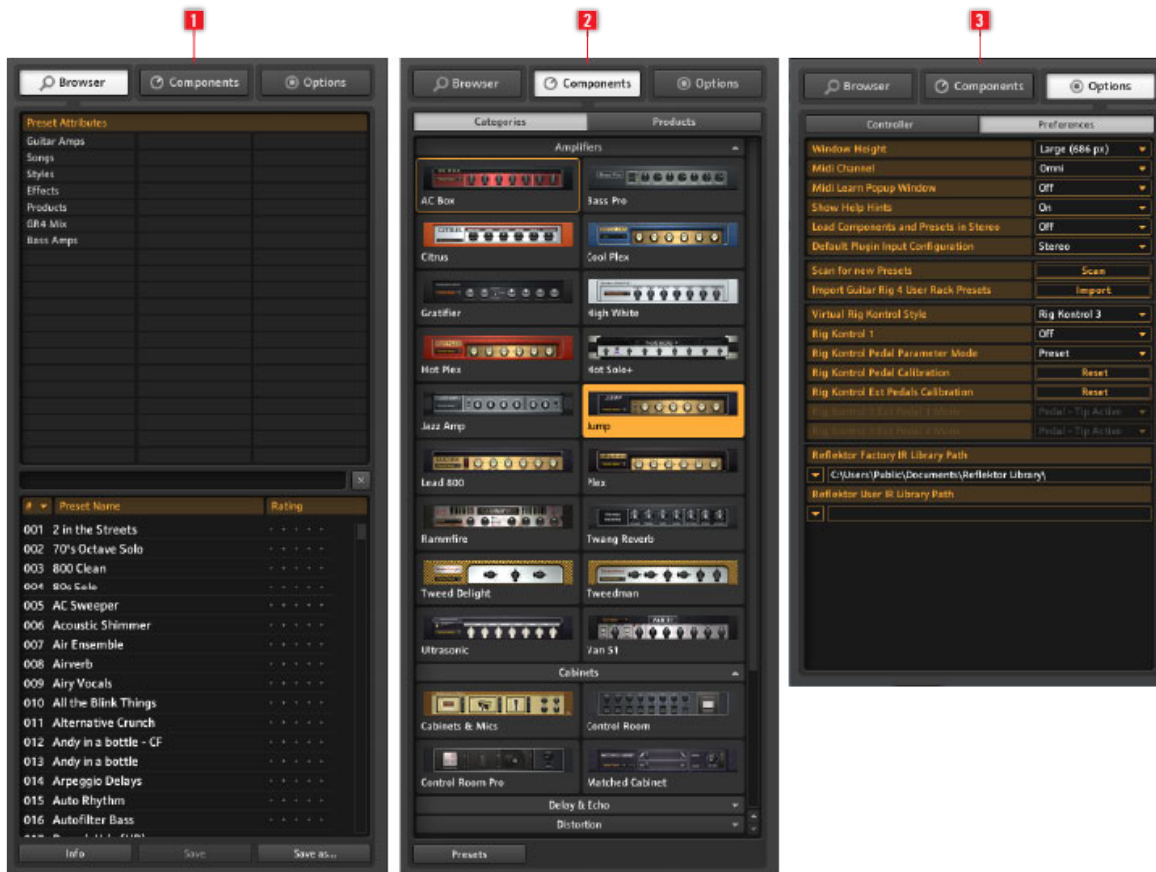


Virtual Rig Kontrol

RIG KONTROL を接続していない場合は、マウスで各ボタンとフットペダルを直接操作することが可能です。更に RIG KONTROL を使用していない状態でも外部 MIDI コントローラーとバーチャル Rig Kontrol を連携させ、各機能を特にライブビューで使用できる環境に設定することも可能です。 [セクション ↑8.1.3, 外部 MIDI コントローラとバーチャル Rig Kontrol をリンクする](#) で詳細を確認してください。

2.5 SideKick

ユーザーインターフェイスの約 3 分の 1 はサイドキック(SideKick)で、画面左側の多機能エリアの事を意味します。



3 種の各 Sidekick モードです。

SideKick では選択する各タブボタン (Browser、Components、Options) によって表示される内容が異なります。SideKick は常に必要な機能ではなく、タブの隣にある矢印ボタン、または F2 ボタンを押すことで隠すことが可能です。

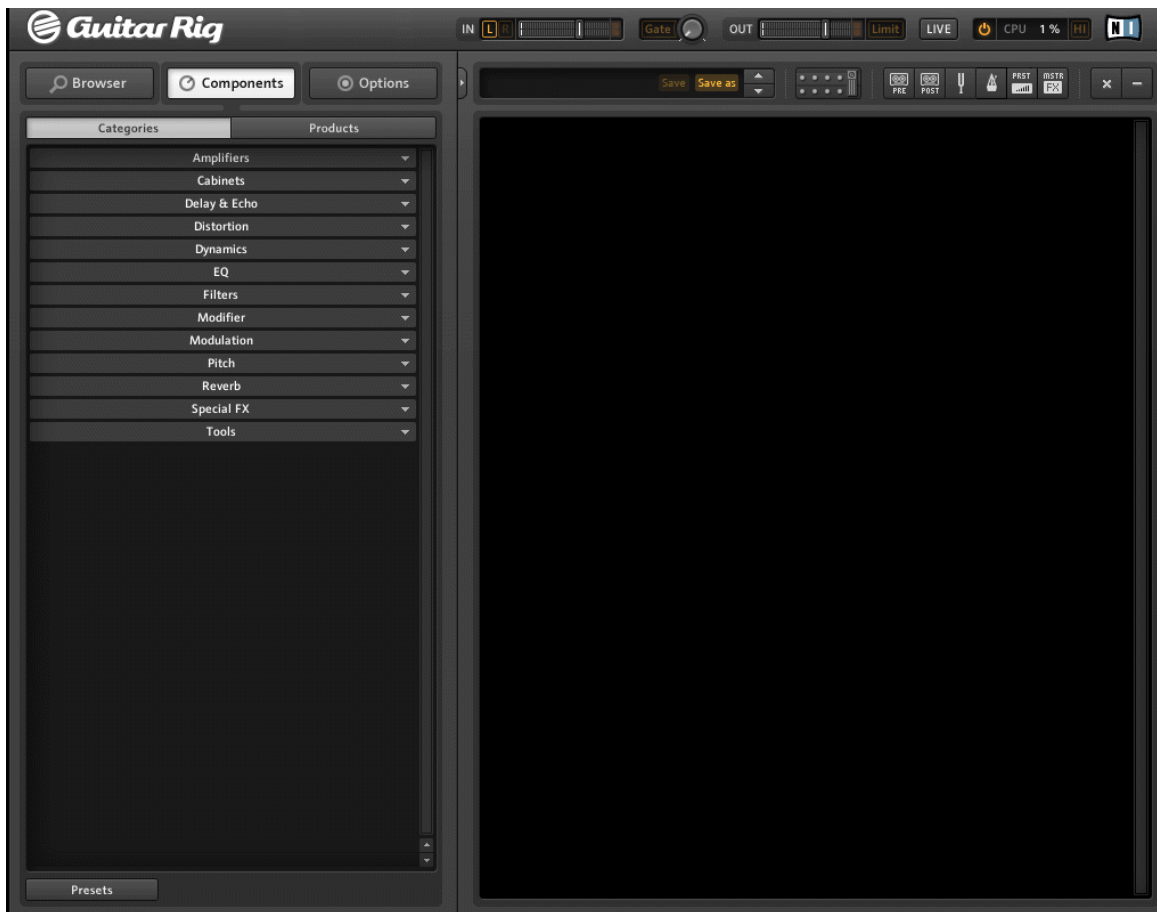
- プリセットブラウザ(Preset Browser、1)では 3 段階でラックのプリセットを選択することができ、プリセットの整理や、テキストサーチによるプリセットの簡単検索が可能です。プリセットに関してはセクション ↑3, コンポーネントとラック を参照してください。

- コンポーネントプール (Component Pool、**2**) には全ての有効なコンポーネントがあります。各コンポーネント内容の解説はコンポーネントリファレンスを参照してください。ラックの作成方法に関してはセクション [↑3, コンポーネントとラック](#) を参照してください。
- オプションスクリーン (**3**) で外部コントローラーの設定とアサインを行ったり、ウインドウサイズ等の詳細調整、プリセットの位置の確認等を行います。セクション [↑8, オプション](#) で MIDI コントローラーの設定方法とその他のオプションについて確認してください。

3 コンポーネントとラック

3.1 ラックの構築

初回起動の時点では GUITAR RIG 5 のラックは空の状態です。演奏すると、少し増幅されたドライな音声を発音するのみなので、各コンポーネントを試してください。



空の状態のラックです。

初期起動以降は、起動するごとにソフトウェアは前回編集していたラックの内容を表示します。 ツールバーの x マークをクリックすると、編集内容がリセットされます。

3.1.1 コンポーネントプール

SideKick のコンポーネント (Components) をクリックしてコンポーネントプールを開きます。 各カテゴリにはサウンドの加工とモジュレーションに必要なコンポーネントと 8 つのカテゴリによるコンポーネントプリセットをアルファベット順で表示しています。 名称部分をクリックするとコンポーネントをリスト表示します。

- **Amplifiers:** ギターとベースアンプです。
- **Cabinets:** キャビネットセット、Cabinets & Mics、Control Room、Control Room Pro です。
- **Delay & Echo:** デイレイとエコーユニットです。
- **Distortion:** ディストーションとオーバードライブ、ファズペダルです。
- **Dynamics:** コンプレッサーとリミッターとゲートです。
- **Equalizer:** グラフィックイコライザーです。
- **Filters:** フィルターとワウワウペダルです。
- **Modifiers:** 編集可能なパラメーター用モディファイアです。
- **Modulation:** タイムとピッチベースのモジュレーションエフェクトです。
- **Pitch:** ピッチベースエフェクトとシンセサイザーです。
- **Reverbs:** リバーブ
- **Special FX:** 容易にカテゴリ分類できない既存の概念にとらわれないエフェクト群です。
- **Tools:** ループ、マスター FX、コンテナーとパラレルシグナルプロセッシング用ツールです。

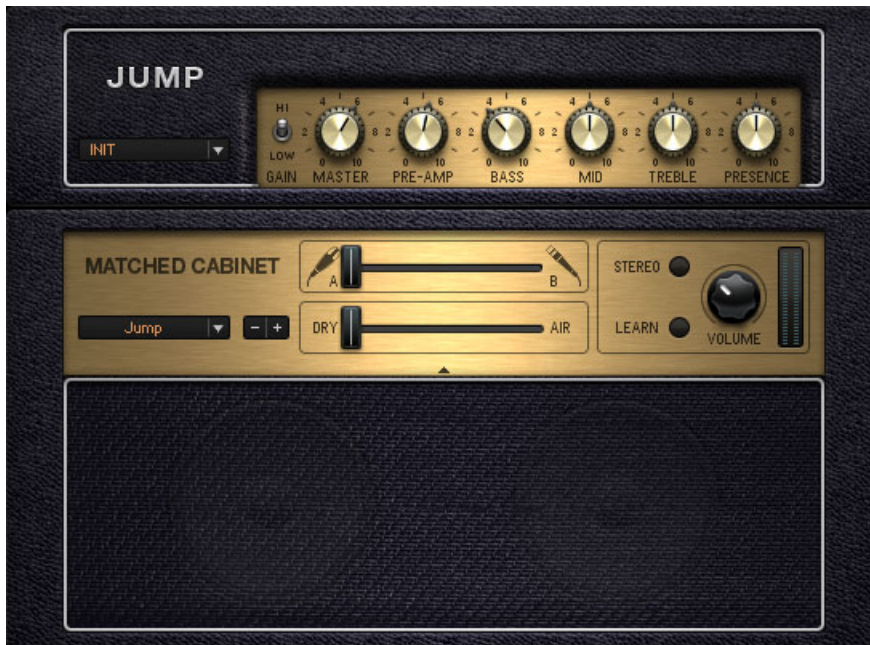
コンポーネントのどれかをクリックすると、有効な全てのコンポーネントプリセットがハイライト表示されます。 コンポーネントプリセットの詳細についてはセクション [↑ 4.3, コンポーネントプリセット](#)を確認してください

3.1.2 アンプの設定

典型的な GUITAR RIG 5 のサウンド形成のスタート地点はラックにアンプを追加することでしょう。 ギターサウンドを簡単に作成したい場合は、手始めに Jump アンプを試してみましょう。

▶ コンポーネントプールからラックにアンプアイコンをドラッグします。 アイコンをダブルクリックすることも可能です。

アンプとキャビネットが同時にラックに追加されます。 アンプに付属するキャビネットがない場合のみ自動的にキャビネットが追加されます。 ここまでの設定で演奏すると、プリティッシュロックで多用されたギターサウンドとなります。



Jump アンプと、マッチするキャビネットです。

▶ キャビネットを変更するには、ラック内のコンポーネントをクリックしてハイライト表示します。その後コンポーネントプールでキャビネットを選択します。ここには Cabinets & Mics、Control Room、Control Room Pro、Matched Cabinets の 4 つのオプションがあります。他のオプションはマッチするキャビネットにあるプルダウンメニューを使用する為のものです。ここでは有効なキャビネットのリストを表示します。プラス/マイナスタブを使用してリスト内を移動することも可能です。



コンポーネントプールからドラッグすることでラック内のマッチしたキャビネットを交換します。

- 表示されている全てのノブとスイッチは全てアンプのサウンド調整用です。マウスをクリックしてスイッチを切り替え、マウスをクリックしたまま上下にドラッグすることでノブを回します。
- サウンドデザイナーによるサウンドをチェックしたい場合は、プルダウンメニューから Jump を選択してください。コンポーネントプリセットを表示するには矢印をクリックします。

INIT ▾

コンポーネントプリセット

3.1.3 ラック構築の基本

オーディオシグナル はパラレルプロセス処理を行わない限り (例 [Split](#))、ラックの各モジュールを上から下へと通過します。各ツールの詳細に関してはコンポーネントリファレンスを参照してください。

ラックの使用法

- ラックへのコンポーネントの追加はコンポーネントプールからコンポーネントをドラッグし、ラックの任意の位置にドロップすることで追加することも可能です。特定の音声を生成する為に、事前に設定したコンポーネントをコンポーネントプリセット内に配置することも可能です(セクション [↑ 4.3, コンポーネントプリセット](#) 参照)。
- ラック内のコンポーネントのどれかをクリックすると、オレンジ枠で表示されます。同時に関係するページとコンポーネントプールのアイテムが表示されます。よってラックを構築している間は、選択した内容に近い内容の別の選択肢が表示されます。

ホットスワップ

コンポーネントがハイライト表示されている間に、コンポーネントプールのアイテムまたはコンポーネントプリセットをダブルクリックすることで現在選択しているコンポーネントと交換します。これをホットスワップといい、瞬時に他のサウンドを試すことが可能となります。(プール内のコンポーネントをクリックすることでラックのコンポーネントが切り替わります。例えばエフェクトをダブルクリックするとアンプが切り替わります。)

コンポーネントをハイライト表示していない場合はコンポーネントプールのアイテム、またはコンポーネントプリセットをダブルクリックすることでラックの最後にコンポーネントを追加します。追加したコンポーネントはハイライト表示されるので、すぐに他のコンポーネントとホットスワップすることが可能となります。ホットスワップはラックにコンポーネント、またはコンポーネントプリセットをドラッグすることで行うことも可能で、交換したいコンポーネントの上で (ホットスワップ可能になるとオレンジ枠で表示されます) コンポーネント、またはコンポーネントプリセットをドロップします。

- ドラッグアンドドロップによる他のコンポーネントとの交換を避けるにはコンポーネントの下にオレンジ線が表示されてからドロップします。



ドラッグアンドドロップ: 黄色の線はマウスを放したときにコンポーネントが配置される位置を意味します。

- ラックツール (チューナー等) の位置は固定されており、移動や削除はできませんが、ツールバーを使用して隠すことは可能です。
- コンポーネントを削除するにはラックのコンポーネントをハイライト表示し、[Del] (Win) / [Cmd]+[Backspace] (Mac OS X) キーを押す、またはラックの外側にドラッグアンドドロップします。その他の方法としてコンポーネントを右クリックし、メニューから *Delete selected* を選択することも可能です。

ラックモジュールカラム

ラックの全てのモジュールには右側に小さな操作列(カラム)があります。



ラックモジュールカラム

- On/Off ボタンでモジュールのバイパスのオンオフ切り替えを行います。オフの状態でも CPU パワーは消費されます。
- - (マイナス) ボタンでモジュールのディスプレイを最小化します。
- 詳細設定パネルがある場合は、三角の矢印で画面を切り替えます。

4 プリセットの活用

GITAR RIG 5 から、有効なプリセットを検索、管理する洗練されたプリセット管理システムを取り去るだけで本製品の特徴が半減します。タグを用いたプリセットブラウザと強力な検索機能によりプリセット管理は非常に簡単です。

ここでは GITAR RIG 4 の 2 種類のプリセットのコンセプトを把握しておくとして理解しやすいでしょう。

ラックプリセット

プリセットブラウザを用いて、ラックプリセットでラックの設定を非常に簡単に保存、呼び出すことが可能です。各ラックプリセットは、一連のコンポーネントを含んでおり、それらはプリセットを有効にした時にラックにロードされます。同時にテンポと全てのコントローラーのアサインも保持しています。この内容はプリセットをロードすると無効になります。この時の対応内容は以下の設定によって異なります。

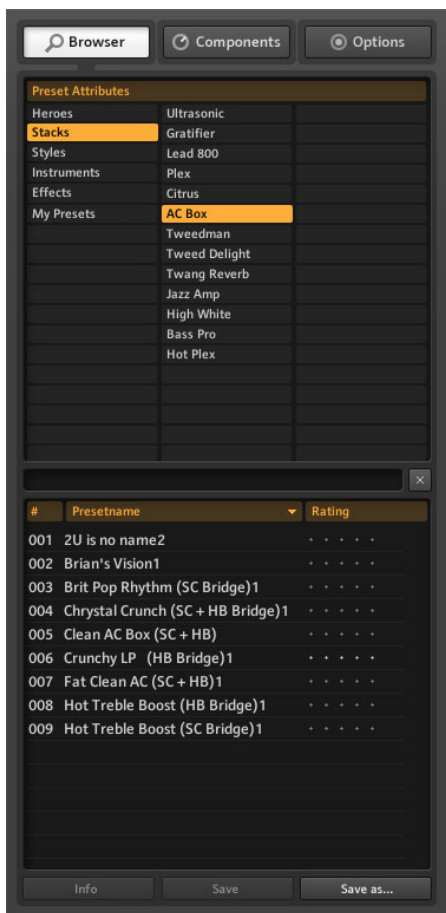
- メトロノームの同期コントロールが **Ext** または **Free** となっている場合は、プリセットをロードしてもメトロノームのテンポが変更されることはありません。ラックプリセットと共にテンポの設定もロードする場合は **Sound** に設定します。
- バーチャル Rig Kontrol と他のコントローラーのアサインはグローバル全体で(セクション [↑ 6.2, Rig Kontrol への機能のアサイン](#) と [↑ 8.1.2, コントローラーへの機能のアサイン](#) 参照)ロックすることが可能で、ロックされると小さな鍵のマークが表示されます。ラックプリセットに保存されたコントローラーアサインはこのロックの対象外です。

GITAR RIG 5 には様々な種類の膨大なラックプリセットを搭載しており、それらは簡単に改造することが可能です。

コンポーネントプリセット

コンポーネントプリセット は単一のコンポーネント用の全設定情報を備えています。例えば、好みの音を再現するのに必要なアンプの正確なノブ設定が設定情報として該当します。コンポーネントプールのアイテムの一つをハイライト表示すると、全ての有効なプリセットがリスト表示されます。コンポーネントプリセットを用いて好きなディレイの設定内容を保存し、いつでも再現可能にしておく事が可能で、または設定したアンプの内容を他のラック内で試すことも可能となります。コンポーネントプリセットをラック構築用ツールとして使用するための詳細はセクション [↑ 4.3, コンポーネントプリセット](#) を参照してください。

4.1 プリセットブラウザ



プリセットブラウザです。

ブラウザ(Browser) ボタンをクリックし、プリセットブラウザ を開きます。これはラックプリセットを検索、整頓する為の強力なツールです。

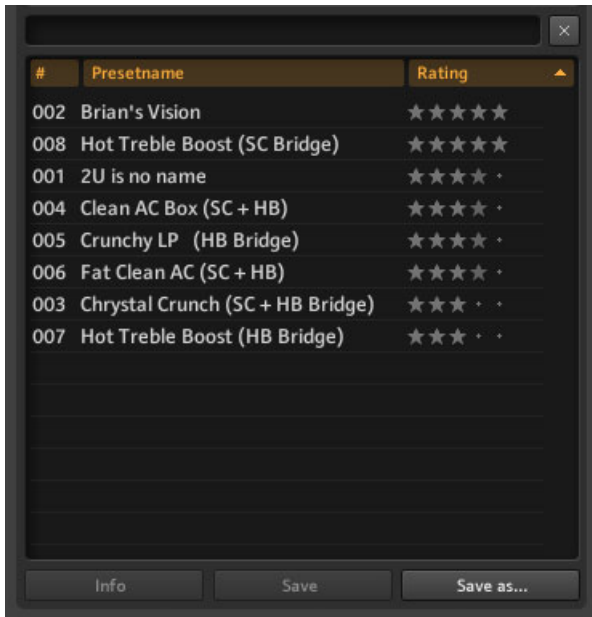
4.1.1 タグとプリセットリスト

プリセットアトリビュートと呼ばれるタグを含んだ 3 つの欄で、プリセットリスト内で表示するプリセットを設定します。タグをクリックすることで各属性(各アトリビュート)を有効/無効化します。タグを何も選択していない場合は、(オレンジ)全てのプリセットを表示します。

▶ 左の欄にあるタグをクリックして選択します。このタグの内容に基づいてプリセットリストの内容が瞬時に切り替わります。

- 選択したタグがサブタグを含んでいる場合は、中央の欄でサブタグを使用することが可能です。
- 選択したサブタグ内にもサブタグがある場合は、3 番目の欄にタグが表示されます。
- サブタグを含んだタグの選択を解除すると、関係するサブタグも削除されます。
- 複数のタグを選択するには SHIFT または [Ctrl] を押しながらクリックします。

プリセットリストには 3 つの欄が設けてあり、それらはリスト番号 (#)、名称、レーティングとなっています。サーチバーの真下にあるリサイズハンドルをドラッグすることでリストのサイズを調整することができます。カラムのヘッダをクリックすることでヘッダの内容に沿ってリスト表示順序を変更することが可能です。

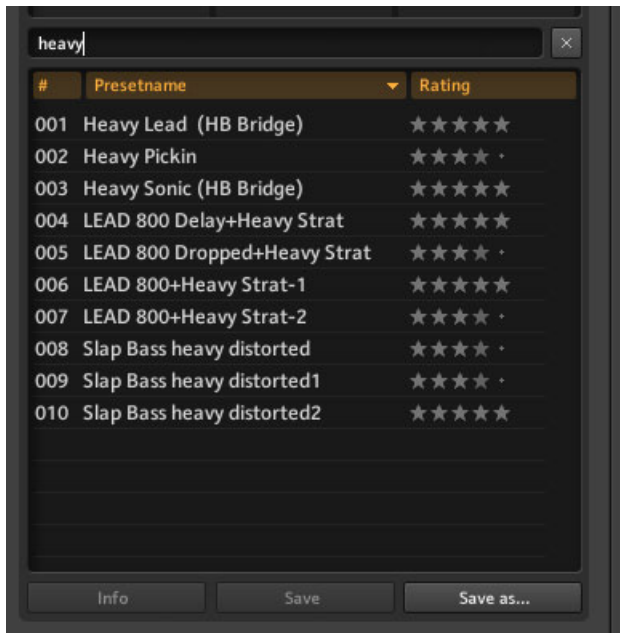


プリセットリストと Ratings (評価) です。

名称の隣にある 5 つ星評価システムによるレーティング機能は、増大していくアーカイブを管理するのに便利です。この評価内容は瞬時にプリセットと共に保存され、プリセット内容を思い出すためのヒントともなり、強力なプリセットリストのサポートとなります。

4.1.2 検索エンジン

新規検索 エンジンでプリセット名称の一部を入力することで希望するプリセットを探すことが可能です。プリセットブラウザとプリセットリストの間にある検索バーで検索文字を入力します。



プリセットを検索しています。

文字を入力するごとに、プリセットリストで表示される内容が絞り込まれます。X マークをクリックすると、検索文字をリセットします。

4.1.3 ラックプリセットのロードと保存

プリセットリストからラックプリセットをロードする方法はいたってシンプルで、ロードしたいプリセット名称部分をダブルクリックするだけです。ALT を押しながらこの操作を行うと、全てのコンポーネントの **Stereo** ボタンは保存した設定内容とは関係なく起動し、オーディオをステレオサウンドで扱うことが可能となります。

ここで設定する内容は自動的にプリセットに保存される内容ではありません。設定した内容を適用するには、ラックの上部、または SideKick の下部にある **Save** または **Save as...** をクリックします。

4.1.4 プリセットのインポート

GUITAR RIG 5 にプリセットをインポートする方法は 2 通りあり、どちらの方法も簡単に行うことができます。

- プリセットブラウザにプリセットファイルをドラッグアンドドロップすると、GUITAR RIG 5 の Sounds フォルダに保存され、タグが付きます。
- GUITAR RIG 5 メニューで *File > Import* を選択すると、タグと共にプリセットフォルダをコピーします。手動で Sounds フォルダにファイルをコピーし、Options / Preferences ページで **Scan Presets** をクリックすることでコピーすることも可能です。

4.1.5 プリセットのエクスポート

プリセットディレクトリに直接プリセットファイルをコピーする方法の他に、プリセットブラウザから直接プリセットをエクスポートすることも可能です。

1. ブラウザで正しくタグを選択することで、エクスポートするプリセットをプリセットリストに表示させてください。
2. 選択には [Ctrl] (Win) または [Cmd] (Mac OS X) キーを使用し、リストの全プリセットを選択するには [Ctrl] / [Cmd] + [A] を使用します。選択しているプリセットの状態を反転する場合は [Ctrl] / [Cmd] + [I] (反転) を使用します。
3. クリップボードにプリセットをコピーするには [Ctrl] / [Cmd] + [C] を使用します。
4. Windows Explorer または Finder にペーストする場合は、[Ctrl] / [Cmd] + [V] を使用します。

4.1.6 新規ラックプリセットの保存

現在のラック内容を新規プリセットとして保存する場合は、**Save as** をクリックします。するとサイドキックの専用ページが開くので、そこでプリセットの名称、作製者名称、レーティング、備考を任意に記入します。新規プリセットは Sounds フォルダに保存されます。



プリセットを新規保存します。

プリセット保存の際に、プリセットブラウザ上部で指定したタグの内容も保存します。もう一度 Save を押して内容を適用する前に、[Save As](#) で更に内容を変更することも可能です。ユーザーが保存したプリセットとはプリセット内でユーザーアイコンと共に表示されます。カスタムプリセットは GUITAR RIG 5 のプリセットリストに表示されます。プリセットを削除するにはプリセットを右クリック (ctrl-クリック) し、*Remove from disk* を選択します。

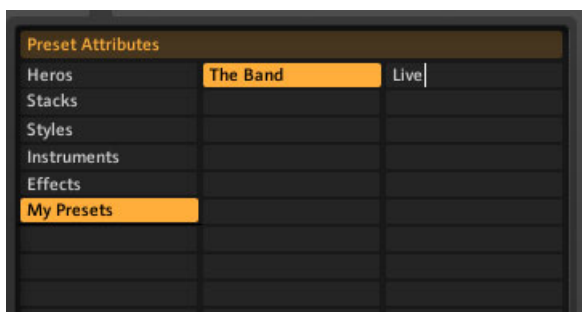
4.1.7 3 段階のタグ

プリセットアトリビュートのタグは階層をなしており、左から右へと内容の性質が顕著となります。最初と 2 番目のタグはサブタグを含み、検索内容を絞り込むことが可能です。

タグの作製と削除

タグを作製し、任意にプリセットへとタグを関連付けることが可能です。各プリセットは異なる階層での複数のタグに反応するので、検索内容管理能力が増します。タグを用いてサウンドの特性を 3 段階で分類することが可能です。これにより、音楽ジャンルや、ピックアップの種類での分類、またはライブでの使用用に分類することが可能です。

- タグを作製するには空のフィールドをダブルクリックするか、該当する欄で右クリックし、*Create a new tag* を選択します。
- 2 番目、または 3 番目にあるタグを作製するには、サブタブの性質上それらの左のタグを選択する必要があります。



タグの作成

▶ タグを削除するにはタグをクリックし、オレンジにハイライト表示した状態にします。その後プリセットブラウザで右クリックします。 *Delete this tag* を選択し、そのタグとタグ内のサブフォルダを削除します。 *Delete this tag*



タグを削除しても関連するプリセットに影響を及ぼすことはなく、タグを選択していない状態でそのプリセットが表示されるはずです。

▶ プリセットを削除するには、プリセットリスト上で右クリックし、 *Remove from disk* を選択します。 *Remove from disk*

例

ここではライブ用タグ 3 種、“Your Band — Live-Presets — In Progress “ を例として新規作成します。

1. 最初の欄で、空のフィールドをダブルクリックして新規タグを作製します。 名称入力欄で任意名称(例、Your Band) を入力しエンターを押します。
2. 新規作成したタグをクリックして選択すると、オレンジにハイライト表示されます。 2 番目の欄をダブルクリックして新規タグを作成します (例 “Live-Preset”)。 これが最初のサブタブで、スタジオ使用なら “Studio-Presets” とすることも考えられます。
3. サブタブはその上の階層と連動して表示されます。 最初の階層である先ほど例に挙げた “Your Band ” を選択解除すると、関連するサブフォルダもなくなります。
4. 3 番目で新規サブタブを作成する方法も同様で、“Live-Tab” をハイライト表示し、新規タグ “In-Progress” を一番右の欄で作成します。

4.1.8 プリセットのタグ処理

いかなるプリセットでも無限のタグを保有することが可能です。 タグをプリセットに追加するには、ドラッグアンドドロップを行います。

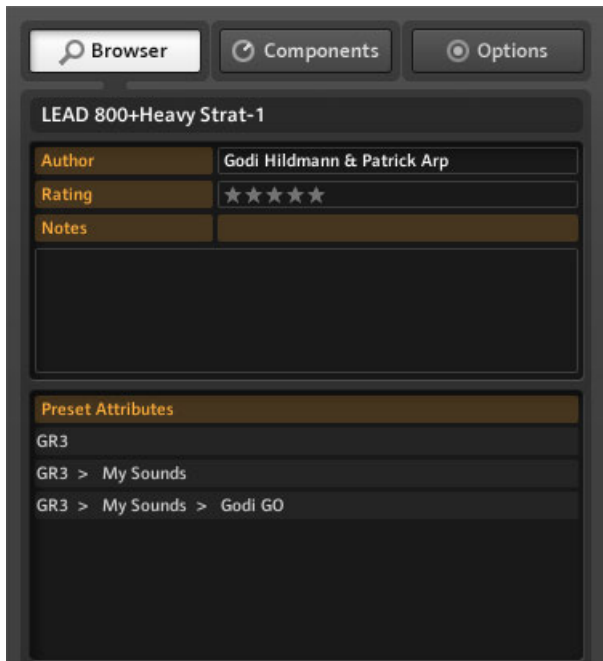
- ▶ プリセットリストの任意のプリセットをクリックし、プリセットブラウザの左の欄にドラッグします。
 - マウスをクリックしたままドラッグし、更に追加したい任意のサブタグにドラッグします。 任意のタグの上でマウスを放すと、(階層とは関係なく)そのタグがプリセットに追加されます。



- 階層を使用するこのタグシステムの性質により、サブタグを追加すると、自動的にその上の階層のタグも追加されます。
- ドラッグドロップによって新規タグを追加しても、それまで属していたタグを解除することはありません。プリセットは新規タグとそれまでに属していたタグの両方でリスト表示されます。
- プリセットから現在選択しているタグを削除するには、その下のプリセットリストからエントリーを削除します。削除したいタグ(サブタグも含む)が選択されているか確認し、プリセットリストでプリセットを選択し、DEL (Win) / [Cmd]+BACKSPACE (Mac OS X) を押します。または右クリックして *Remove from this list* を選択します。
- 複数のプリセットリストからプリセットを削除するにはインフォページ (Info Page セクション ↑4.2, [プリセットインフォページ](#) 参照) を使用します。
- プリセットから全てのタグを削除すると、プリセットブラウザ内でタグを何も選択しない状態で表示されます。
- プリセットを完全に削除するには、ハイライト表示してから右クリックし、Remove from disk を選択します。

4.2 プリセットインフォページ

Info をクリックすると、現在選択しているプリセットに関する以下の情報が表示されます。



プリセットアトリビュートです。

各項目以降のフィールドをクリックして内容を編集することが可能です。

- **Author:** [Save as](#) デフォルトとしてダイアログで入力した名称が使用されます。
- **Rating:** 評価を変更するには、点/星をクリックします。
- **Notes:** ライブビューで表示される内容です。ここに備考を記入します。
- **Preset Attributes:** ここで現在選択しているプリセットの全タグを全て確認することが可能です。タグの一つを選択すると、プリセットリストでこのタグを含む全てのプリセットを表示します。プリセットリストからプリセットリストを削除すると現在選択しているタグを削除します。

4.3 コンポーネントプリセット

GUITAR RIG 5 では基本的/代表的なサウンドのコンポーネント設定にかかる時間を節約する為に、十分な数のファクトリーコンポーネントプリセットを用意しています。

4.3.1 ベーシック

コンポーネントプリセットは単一のコンポーネント用の設定情報を備えています。コンポーネントプールからアイテムを選択して Presets タブをクリックすると、全ての有効なコンポーネントプリセットが SideKick の下部に表示されます。

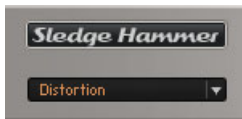


Amplifiers セクションを表示したコンポーネントプールです。

このリストでは特定のサウンドを再現する為にあらかじめ調整された各セッティングを用意しています。あらかじめ設定されたコンポーネントを追加するには、コンポーネントプリセットをダブルクリックするか、ラック内の任意の位置にそのコンポーネントプリセットをドラッグします。

コンポーネントプリセットとラック

各ラックモジュールは、現在選択しているコンポーネントプリセットの名称を左のコンポーネントプリセットディスプレイで表示します。



コンポーネントプリセットセレクションです。

SideKick でコンポーネントプリセットをダブルクリックしても、ラックの状態によっては通常のコンポーネントをクリックしたときと同じように機能します。

- ラックモジュールを何もハイライト表示していない場合は、コンポーネントは保存されたセッティングと共にラックの最下部に追加されます。
- コンポーネントをハイライト表示している場合は、このコンポーネントがあらかじめ設定が施されたコンポーネントに切り替わります。
- ラック内の同じコンポーネントがハイライト表示されている場合は、この設定はコンポーネントプリセットと共に更新されます。これは現在使用しているラックのコンポーネントを異なる設定で試したい場合に便利です。

コンポーネントプリセットの保存

頻繁に使用するコンポーネントの最適な設定を終えたら、このコンポーネントプリセットを保存することも可能です。この場合、Bank を作成すると便利です。Bank はユーザー設定可能なカテゴリーでここにコンポーネントプリセットを保存することが可能です。

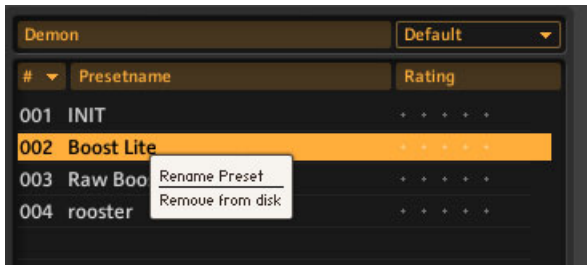
- ▶ Sidekick プリセットウインドウはプルダウンウインドウで、ここで *Add Bank* を選択します。(このウインドウでは *Delete Bank* と *Rename Bank* も選択可能です)。この動作で、コンポーネントプリセットのリスト内にフォルダを作成します。



Add Bank
Delete Bank
Rename Bank

- ▶ コンポーネントプリセット保存用新規フォルダの名称も入力してください。
- ▶ コンポーネントプルダウンメニューで *Save as* を選択します。 *Save as* → 新規プリセット名称は新規名称を与えるまで *New Preset* と記されます。

- ▶ 現在表示しているプリセットの編集内容を保存するにはコンポーネントメニューで *Save* を選択します。 *Save*



コンポーネントプリセットを削除、または名称変更します。

- ▶ コンポーネントプリセットの削除、または名称変更を行う場合は、リスト上の名称を右クリックし、メニューで実行する内容を選択します。

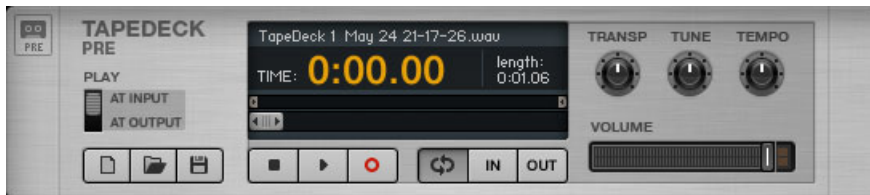
分類とレーティング

コンポーネントプリセットの各分類項目のヘッダ、(リスト番号を意味する #)、名称、レーティングをクリックすることでリスト表示内容を整理することが可能です。 名称の脇にある 5 つの星をクリックすることで各プリセットを評価します。 この評価内容は後に変更することも可能です。

5 ラックツール

以下のセクションでは GUITAR RIG 5 のラックツールを解説します。ツールにはテープデッキプレ/ポストチューナーとメトロノームを備えています。

5.1 テープデッキプレ (Tapedeck Pre)



テープデッキプレラックツールです。

テープデッキプレ(Tapedeck Pre) ツールで GUITAR RIG のシグナルチェーンの最初で再生と録音を行います (**PLAY AT OUTPUT** を有効にした場合は除く)。テープデッキプレは演奏内容にサウンド加工が施されていない状態の演奏内容を録音し、ベストの演奏を取っておいて、様々なサウンド加工を試すことが可能です。Tapedeck Pre で再生すると、ラックにある全てのモジュールに対して音声が通過します。テープデッキプレはピッチを変更することなくテンポを変更、またはその逆の処理が可能です。この機能で演奏内容の詳細部を聞き取ったり、バックトラックのテンポを変更などが行えます。

5.1.1 再生

- テープデッキにサウンドファイルをロードするのに一番簡単な方法は、ファイルをコンポーネントに直接ドラッグアンドドロップする方法です。ファイルをブラウズするには、Load ボタン (フォルダを開くシンボルです) をクリックします。
- テープデッキでは WAV、AIFF、MP3 ファイルを最大 16 ビットの解像度で再生することが可能です。
- Play ボタンを押すとトランスポート(Transport) スライダーが示す位置から再生を開始します。Stop ボタンを押すと再生を停止します。
- PLAY AT OUTPUT** を起動すると、サウンドが加工されることはなく、テープデッキポスト(Tapedeck Post) の直前で再生するので、オーバーダビングが可能となります (以下参照)。
- ボリューム (Volume) フェーダーを調整して再生レベルを設定します。リミッター LED (Limiter LED) が点灯した場合は、オーバーロードを避ける為にこのボリュームを下げてください。

ファイルをループ再生することも可能です。

- Loop ボタン (right to the Stop button) を押すと、ループ再生を開始します。
- ループのスタートとエンドポイントはトランスポート (Transport) スライダーの上の **Start** と **Stop** をマウスのドラッグで調整します。
- 再生中に **In** と **Out** ボタンを押して設定を瞬時に行うことも可能です。 **In** ボタンと **Out** ボタンでループを設定します。

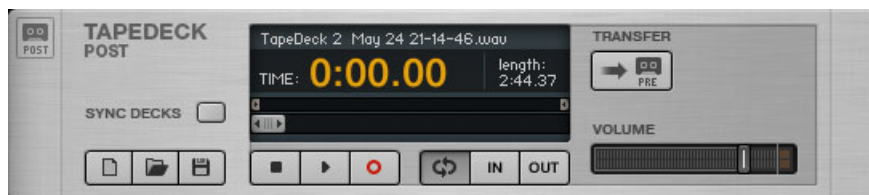
練習中やバックトラックを使用している場合に非常に便利な再生オプションもあります。

- **Transpose (TRANSP)** でピッチを -12 半音から +12 半音までの間で移調します。
- **TUNE** で -50 セントから +50 セントの範囲でファイン・チューニングを行うことができます。
- **TEMPO** で再生速度をオリジナル・テンポの 50% から 150% の間で変更します。

5.1.2 録音

- ▶ 他にファイルをロードしていない場合は、**Record** ボタンを押すと、**Play** ボタンを押すことで録音を開始します。 **Record**
- ▶ 録音するファイルを初期化するには、左下にある **New (Page)** ボタンをクリックします。これで自動的に **Record** ボタンが起動します。
- ▶ **Play** ボタンを押すと録音を開始します。
- ▶ 録音後にファイルを保存するには、**Disk** ボタンを押します。ファイルを保存するフォルダを指定してください。ファイル名称を入力後、**Save** ボタンをクリックします。

5.2 テープデッキポスト (Tapedeck Post)



テープデッキポストラックツールです。

テープデッキポストツールで GUITAR RIG のシグナルチェーンの最後で再生と録音を行います。ギター音声を録音すると、アウトプットを通じて聞こえる音声がそのまま録音されます。実際のギター音声をそのまま録音したい場合にテープデッキポストを使用します (例 録音したトラックを GUITAR RIG 5 以外の他のプログラムで処理する場合に使用します)。インポートしたファイルや再生内容は処理されないため、テープデッキポストはドラムループの再生や、バックトラックの使用などに向いています。

操作内容はテープデッキプレと似ていますが、Transpose (TRANSP)、TUNE、TEMPO 機能及び、In/Out 設定機能はありません。

5.2.1 テープデッキプレの使用方法

テープデッキポスト (Tapedeck Post) はテープデッキプレ (Tapedeck Pre) とリンクしており、相互の同期と録音内容の移動は非常に簡単です。

- **SYNC DECKS** をオンにすると、テープデッキポストはテープデッキプレと同期します。この機能は GUITAR RIG でサンプルを作成する場合非常に便利です。
- **TRANSFER** ボタンを押してテープデッキポストからテープデッキプレに録音内容を移動することも可能です。

5.2.2 オーバーダブ

1. テープデッキプレでシグナルチェーンの最後にあるファイルを再生することはできますが、テープデッキポストの前ではオーバーダブを使用して複数のトラックを簡単に録音することが可能です。 ツールバーの各ボタンを押し、両方のテープデッキを表示してからこの作業を行ってください。
2. 上記で解説したように、テープデッキポストでトラックを録音します。 **TRANSFER** ボタンをクリックしてテープデッキプレに送ります。 オーバーダブするファイルをテープデッキプレにロードしてもかまいません。
3. テープデッキプレで **PLAY AT OUTPUT** を選択します。
4. テープデッキポストの **SYNC DECKS** を起動します。
5. テープデッキポストで **New** ボタンを押し、空のトラックを作成します。 **Play** クリックして次のトラックをオーバーダブ録音します。
6. もう一度オーバーダブを行うには、**TRANSFER** をクリックし上記の方法を繰り返します。
7. オーバーダブを繰り返し、その内容を保存する場合は上記のように保存を行います。

5.3 チューナー



チューナーラックツールです。

素早く正確にチューニングを行います。このチューナー機能の左には、チューニングのバリエーションのリセット (*Chromatic*、*Bass*、*Open D / E / G / A*、*DADGAD*) が控えています。

- **CENT / STROBE** ボタンでチューニングモードを切り替えます。
- **CENT** モードでチューニングピッチに対してシャープ (メーター中心より右)、またはフラット (メーター中心より左) の場合に表示します。画面左の数値で何弦をチューニングしているか表示します。チューニングが合うと、メーターが青く点灯します。
- **STROBE** モードでは、弦のピッチが高すぎるときは点状のライトが右に動き、低すぎるときは左に動きます。ライトが速く動くほどチューニングが大きくずれていることを示します。ライト表示が停止するとその弦は調整されたことを表します。
- **MUTE** ボタンはチューナーをライブ時に使用する際に便利です。
- ▶ 矢印ボタンをクリックしてチューナーの詳細パネルを開きます。
 - **REFERENCE PITCH** でチューニング基準を A=425Hz から A=455Hz までの間で調整します。ノブをドラッグしている間は正確にチューニングピッチを表示します。
 - **CENTS** で正確なピッチとの差異をセント単位 (半音の 100 分の 1 の音程) で示します。
 - **TUNE** でチューニング・レンジを移調します。すべての弦を半音低くチューニングする場合は、ここを -1 に合わせます。
 - **TUNE FORK** で基準トーンを発音します。ピッチを選択するには、右のノートフィールドをクリックし、ドラッグで上下するか、矢印ボタンをクリックします。

5.4 メトロノームと同期



メトロノームラックツールです。

メトロノームはテンポのガイド機能だけではなく、同時にモジュレーションやディレイ等の同期機能を備えたラックモジュールのマスタークロックとしても機能します。

シンク (Sync、以下参照) モードではない場合、テンポを任意の設定にすることが可能です。

- BPM ディスプレイをクリックして上下ドラッグ、または矢印をクリック、または数値をダブルクリックしてし数値を入力することで、20 から 400 BPM の間の任意のテンポを選択します。
- **TAP** ボタンを均等なテンポで何回かクリックします。メトロノームが平均値を割り出し BPM を算出します。フットコントローラーにこの機能をアサインしておくとう便利でしょう(セクション [↑6.2, Rig Kontrol](#) への機能のアサイン 参照)。
- **Signal** ディスプレイの横にあるドロップダウンメニューで拍子を選択することも可能です。タイムシグニチャーでダウンビートとオフビートの関係を設定します。
- **MUTE** を押していない場合この設定は下のボックスで設定するサウンド #1 と #2 の関係に影響しません。
- #1 はダウンビートで通常ビートとして認識する部分です。
- #2 はビートが通常弱い部分です。

この 2 つのサウンドは各 Load ボタンを押して他の WAV ファイルに変更することが可能です。

Sync 設定でメトロノームがテンポの各発信元に同期します。同期の内容は以下の 3 種です。

- **ext:** プラグインで使用している際にメトロノームはホストのテンポと同期し、スタンドアローンモード時には外部 MIDI クロックに同期します。テンポに関係した設定項目はオフの状態となります。
- **Sound:** 現在のテンポがプリセット保存時にラック設定の一部として保存されます。この設定ではプリセットのロードの際に、メトロノーム (Metronome) がテンポ情報をロードします。これはシンクエフェクトが備わったプリセットを使用する際に便利です。
- **free:** これでホストとプリセットの同期がオフの状態となります。メトロノームはロードしたプリセット、またはホストのテンポとは関係なく自身が設定するテンポによって自在に変化します。この設定でもラック内のテンポ情報を参照するエフェクトにクロック情報を伝達するので、現在のテンポをプリセットに保存することも可能です。

- **MUTE** ボタンと ボリューム **VOLUME** ノブで メトロノーム音声の音量とミュートをコントロールします。

5.5 プリセットボリューム



プリセットボリュームラックツールです。

GUITAR RIG のコンポーネントの多くのサウンドはインプットシグナルレベルとボリューム設定に非常に敏感です。各サウンドデザインの性質上、各プリセットに音量差が生じます。ですから、ラック全体の音量を調節して異なるプリセットでも均等なアウトプット音量に設定する必要があります。

プリセットボリューム (Preset Volume) はまさにその調節の為の機能で、サウンドの調整を終えたら、ボリュームフェーダーで音量を調節してください (このボリューム設定はプリセットの保存の際に保存されません)。

- **LEARN** ボタンでプリセットボリュームを自動的に最適な値に設定します。クリックした後、ボリュームが調整されるまでの短い間、通常の音量で演奏し続けてください。
- **PRE** ボタンで音声が入力される前の段階の音声のドライ/ウェットミックスを聞くことが可能です。デフォルトでミックスはラックと Master FX の間で行われます。
- **DRY** スライダーでドライシグナルのボリュームをコントロールします。
- **MIX** クロスフェーダーでドライ/ウェットシグナルを切り替えます。
- **WET** スライダーでウェットシグナルのボリュームをコントロールします。

5.6 Master FX



Delay と Reverb プリセットがある状態の Master FX ラックツールです。

プリセットを変更する際に ディレイサウンドを加えて間を持たせたい場合、プリセット全般に EQ 処理を行う場合、FX チェーンはそのままで、アンプリセットのみを変更する場合等、Master FX の使い方は様々です。

Master FX にはサウンドの性質を決定付ける部分であるラックを通過した後のサウンドを調整する為のコンポーネントを装備しています。この部分が他の部分と異なる点は、他のラックプリセットをロードしてもここでの設定内容を維持する点です。

このセクションを含めた全体が大ききなラックで、その中にサウンドを構成する為の各ラックがあると考えると理解しやすいでしょう。

- コンポーネントプール、またはラックへのドラッグアンドドロップでコンポーネントを追加します。配置位置を示すオレンジのラインが Master FX ヘッダの下に表示されてからドロップしてください。
- Master FX エリアの灰色で表示してある部分でコンポーネントを削除、移動、コンポーネントの交換ができます。
- ファクトリー、またはユーザープリセットから Master FX を設定してください。
- **x** をクリックして Master FX セクション全体を空にします。
- 矢印をクリックして Master FX セクションを最小化します。

Master FX プリセット

Master FX 内のコンポーネントプリセットの各コンポーネント設定内容を保存することも可能です。他のコンポーネントの保存時と同様に、黒いコンポーネントの矢印をクリックします。

プリセットディスプレイでプルダウンメニューを開き、*Save As* を選択します。Master FX プリセットとはコンポーネントプールの Tools セクションに保存されます。

New Banks も他のコンポーネントプリセットと同様に作成することが可能です。

他のラックツールと同様に、Master FX は選択、またはハイライト表示することはできません。

6 Rig Kontrol

このセクションでは RIG KONTROL ペダルボードで GUITAR RIG を操作する方法を解説します。このコントローラーを使用しない場合はこの章は飛ばして構いません。バーチャル Rig Kontrol 用に使用している他の MIDI コントローラーをアサインする方法に関しては、セクション [↑8.1.3, 外部 MIDI コントローラとバーチャル Rig Kontrol をリンクする](#) を参照してください。

Rig Kontrol は GUITAR RIG 5 のコントロール専用設計されたハードウェアです。9 つのアサイン可能なスイッチと 1 台のエクスペッションペダルを接続後に直ちに使用することが可能となります。RIG KONTROL をオーディオインターフェイスとして使用していなくても、GUITAR RIG 5 をコントロールすることが可能です。ハードウェアの使用法と、ハードウェアをオーディオインターフェイスとして設定する方法に関してはハードウェアリファレンスを参照してください。

まず、RIG KONTROL が USB 2.0 を介して接続されているか確認し、ツールバーの ボタンをクリックしてバーチャル Rig Kontrol を起動してください。バーチャル Rig Kontrol で各ボタンは LED でオン/オフの状態を表示します。フットペダルの左の LED バーでペダルを踏み込んだ角度を表示します。Virtual (バーチャル) Rig Kontrol にはアサインの管理と設定詳細設定パネルも含んでおり、各コントロールパラメータを設定することが可能です。

6.1 Rig Kontrol の起動

RIG KONTROL は GUITAR RIG に接続すると、自動的に起動します。複数の GUITAR RIG 起動している場合、最後に起動したアプリケーションに対して RIG KONTROL が機能するようにデフォルト設定されています。



バーチャル RIG KONTROL

Virtual Rig Kontrol を表示するにはツールバーのボタンをクリック、または F3 を押します。 起動した LED をクリックすることで RIG KONTROL が起動します。

6.2 Rig Kontrol への機能のアサイン

ボタンの下とフットペダルの左でアサインした機能を表示します。 RIG KONTROL の各スイッチは Bypass または Mute 操作に向いており、ペダルはワウワウやスライダー用に使用します。

ドラッグ アンド ドロップ

アサイン機能はドラッグアンドドロップで簡単に設定可能です。

1. Rig Kontrol のラベルをクリックし、ラックのコントローラーにドラッグすることでアサイン設定を行います。
2. RIG KONTROL ハードウェアのスイッチまたはペダルを操作すると、バーチャル Rig Kontrol とアサイン先の機能が反応します。

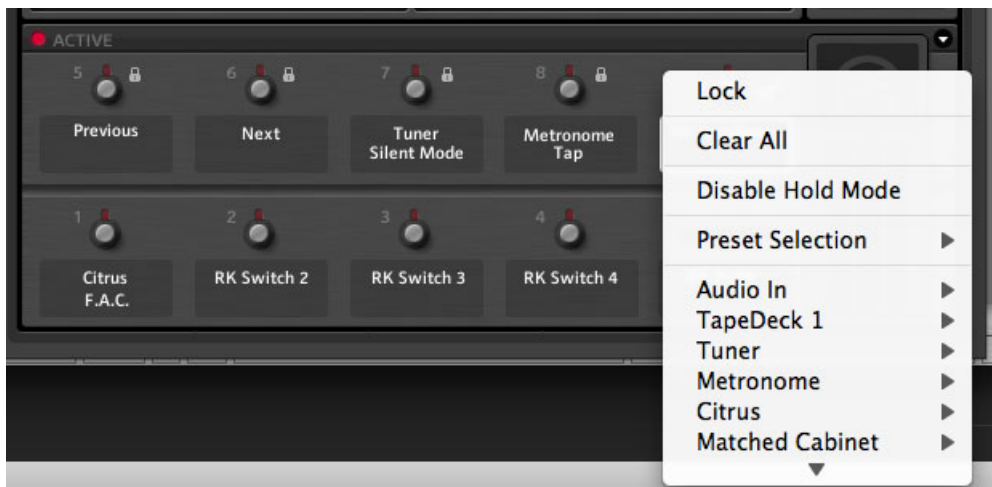


Switch 1 を Plex の Volume I ノブにドラッグした状態です。

ドラッグしている間、マウスポインターがアサイン先を示します。No Entry サインはアサインできないエリアを示したときに表示されます。

メニュー

またメニューを使用してアサイン可能な機能をブラウズすることも可能でアサインしたいスイッチの名称部を右クリックするとアサイン可能な機能を全て表示します。

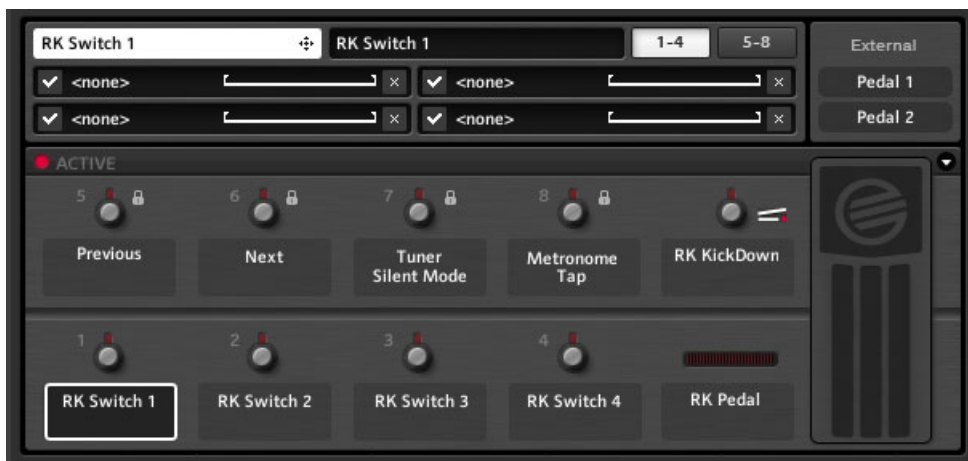


このメニューで Clear All をクリックすることにより、選択したコントロールのアサイン設定を全て取り消すことが可能です。

Lock を使用すると、現在のアサイン設定の誤った変更を防ぐことが可能です。ロック解除はメニューで行います。各コントローラーでロックの状況を鍵のシンボルで表示します。

6.3 アサインの設定

RIG KONTROL のアサインはバーチャル Virtual Rig Kontrol のエキスパートパネルで管理可能です。矢印をクリックしてアサイン画面を表示し、バーチャル Rig Kontrol のスイッチか名称部をクリックして選択します。機能が指定したコントロール部にアサインされ、エキスパートパネルでも表示されます。



バーチャル Rig Kontrol エキスパートパネルです。

以下はエキスパートパネルの内容です。

- 上左隅の白いラベルをドラッグアンドドロップして機能をアサインします。
- 選択したコントロール部の名称を変更するには、エキスパートパネル上部の黒いフィールドで名称入力を行います。この名称が白いラベル部とは関係なく Virtual Rig Kontrol で表示される名称となります。
- そこでは各ページにわたり、4 種ずつのアサインを行うことが可能です。4 つ以上のアサインを行うにはボタン 5-8 クリックして表示します。
- アサインを一時的に取りやめる場合は、左側のチェックを外します。再チェックしてアサインを再開します。
- アサインの削除を行うには右にある **x** をクリックします。選択したコントロールの全てのアサインを削除するには、その部分を右クリックして **Clear All** を選択します。

パラメータのマッピングレンジ

水平線は各アサインの設定値幅を意味します。アサインパラメーターにマッピングされたコントローラーのインプット値を調整するには、左右の括弧の部分をクリック、ドラッグして調節します。

- 左の括弧でコントローラーの 0 値を設定、右括弧でコントローラーの最大値を設定します。
- スイッチはオンオフ情報のみを扱うので、この括弧はノブの位置を設定するのに使用されます。例えば、ノボリュームブの可変幅を 12 時の方向から最大値までの設定にしておく、といった具合です。

- これらの括弧を反対方向に設置しておくことで、マッピングが反転し、スイッチをオンにすることでノブを下げる、といった設定を行うことが可能となります。この機能は、1つの動作で2つの異なる値を変化させたい場合に便利で、例えばマスターボリュームを下げながらゲインをあげるといったことが可能です。

6.4 外部コントローラーへの機能のアサイン

外部フットスイッチ またはペダルを RIG KONTROL のアナログコントローラーインプットに接続して Virtual Rig Kontrol で簡単にアサインを行うことも可能です。Preferences パン (セクション ↑8.2, 環境設定 (Preferences)) でインプットが正しく設定されているか確認してからこの作業を行ってください。矢印をクリックし、Virtual Rig Kontrol のエキスパートパネルを表示してください。上右隅には RIG KONTROL ラベルと同じようなアナログコントローラー用の2つのラベルを表示しています。機能のアサイン方法は RIG KONTROL で行った方法と同様です。

1. Virtual Rig Kontrol の矢印をクリックしてエキスパートパネルを表示します。
2. Pedal 1 または Pedal 2 ボタンをラックの任意の機能にドラッグします。



使用している外部フットスイッチを踏んでいる間のみ"オン"の状態となる場合は(オン/オフ切り替えとして機能しない場合)、対応するインプットのメニューにある Toggle Mode を起動します。

7 ホスト内で Guitar Rig を使用する。

GUITAR RIG 5 は VST、RTAS、AU プラグインインターフェイスを使用可能なデジタルオーディオワークステーション (DAW) 内でも機能します。プラグインは自動インストールされます。

7.1 ベーシック

インストール後、GUITAR RIG 5 をホスト内で他のプラグインと同様に使用することが可能です。スタンドアロンとプラグインモードの GUITAR RIG 5 は同じプリセットと設定内容を使用し、どちらかで変更した内容がもう一方にも反映します。

7.1.1 オーディオと MIDI の設定

プラグインモードではホストアプリケーションが使用するオーディオインターフェイスを使用するので、GUITAR RIG 内で設定した Audio and MIDI Settings は適用されません。使用している DAW のマニュアルを参照してオーディオと MIDI の設定を行ってください。ゼロレイテンシーとダイレクトモニタリングオプションは GUITAR RIG 5 で加工した音声の確認ができなくなるので、使用しないでください。

7.1.2 プラグインロケーション

Windows 上で GUITAR RIG 5 をインストールする際に使用している DAW がプラグインを確認するフォルダを指定する必要があります。ここで "Guitar Rig 5.dll" プラグインファイルが格納されます。プラグインフォルダを変更する場合、またはバックアップ用に活用することが可能です。その場合、使用している DAW に GUITAR RIG 5 を再認識させる必要がある場合があります。

Mac OS X ではプラグインは常に Audio/Plug-Ins ライブラリ (Library) に保管されます。

7.1.3 ギター、またはベースとラックの設定

GUITAR RIG 5 で加工するトラックを設定するにはオーディオトラックを作成し、GUITAR RIG 5 をエフェクトとして使用します。オーディオトラックは加工されていない音声となり、この音声は DAW のアウトプットに到達する前に GUITAR RIG を通過します。よってギターやベース音声を録音した後サウンドを加工することは簡単で、更にサウンドのパラメーターをオートメーション処理して楽曲内のアレンジのアイデアとして活用することも可能です (セクション [↑4.3](#), [コンポーネントプリセット](#) 参照)。

プログラムによって GUITAR RIG 5 プラグインを MIDI インストゥルメントとして扱うことも可能ですので、シグナル生成/エフェクトインサートとして活用してください。

7.1.4 同期(Synchronization)

GUITAR RIG 4 をホスト上で同期するには、メトロノームの Ext をオンにします(セクション↑5.4, [メトロノームと同期](#)参照)。これにより、GUITAR RIG はホストのテンポをマスターとして使用します。これによってテンポを使用するエフェクトとモディファイヤ、メトロノーム自体が全て同期します。

7.1.5 トータルリコール

DAW 内で GUITAR RIG 5 を使用する際に DAW は GUITAR RIG 5 の状態を常時保存します。プリセットを編集した場合でも、次回起動する際にもそこまでの編集内容を忠実に再現します。

7.2 各パラメーターのオートメーション

このセクションではオートメーションについて触れ、この内容に関する GUITAR RIG 5 の使用方法についても解説します。これはシーケンサー内での機能なので、使用している DAW のマニュアルを参照して具体的な設定方法を確認してください。

シーケンサーのオートメーションはパラメータの変更内容を録音することを意味し、ワウワウペダルの動きの録音や、ファズエフェクトをソロに合わせて起動するといったことが可能です。設定は演奏中にフットペダルを使用することで行うことも可能です。

パラメーターのオートメーションは GUITAR RIG 5 プラグインを用いて簡単に設定することが可能です。GUITAR RIG またはホストでコントローラーハードウェアを設定するか、マウスでコントロールするパラメーターを設定した後、GUITAR RIG 内でノブ等を動かすことでオートメーションの録音を行うことが可能です。

7.2.1 オートメーション リスト(Automation List)

DAW の資料を参照して GUITAR RIG 5 プラグインのオートメーションリストを表示する方法を確認してください。現在ラックにあるコンポーネントの全パラメータは自動的にオートメーションリストに表示され、シーケンサー内でのオートメーションに対応します。ノブのメニューで現在のオートメーション ID を確認してください。

- オートメーションリストは 512 スロット分あり、アプリケーションの 3 つのエリアに分割してあります。
- 最初の 256 のスロットはメインラックのコンポーネントパラメーター用です。
- 257-383 までのスロットは Rack Tools と Framework Parameters (Preset Volume 等) 用です。
- 384 以降のスロットは Master FX セクションのコンポーネントパラメーター用です。

ラックからモジュールを削除すると、そのスロットも空になります。新しくモジュールを追加すると、オートメーションリストに各パラメータをリスト表示します。リストの最後にエントリーを追加することはできません。

ラックツールにオートメーションを適用する

Rack Tools (Metronome、Tapedecks、等) はデフォルトでは固定オートメーション ID を用いて設定するようにしてあります。Rack Tool のオートメーション ID を直接アサイン可能な状態に切り替えることも可能で、互換性の効率化を図ることも可能です。

オートメーションモードの切り替え方法は以下です。

Rack Tool を右クリックし、*Enable Static Automation IDs* または *Disable Static Automation IDs* (どちらかのモードを起動してください) を選択します。

オートメーション リストの再構築

コンポーネント各を追加、削除した後のオートメーションリストは雑然としています。空のスペースをう全て取り除く場合は、ラック内のコンポーネントを右クリックし(プラグインモードのみ) メニューで *Rebuild Automation List* を選択します。オートメーションリストの順序をこのオプションで変更する為録音したオートメーション先のコンポーネントが異なる場合があります。

7.2.2 Apple Logic Pro 内でのパラメータのオートメーション

この例では Apple Logic Pro を用いた使用例を紹介しますが、他の DAW ソフトウェアも同様の操作方法で機能するはずですが。ホストの詳細については、DAW の説明書を参照してください。

1. View メニューで、選択したトラックのトラックオートメーションを表示します。
2. トラックを **Latch** または **Touch** モードに切り替えます。
3. 再生します。
4. RIG KONTROL / MIDI コントローラー / マウス を使用して GUITAR RIG のコントロールを動かします。

トラックをプレイバックする際に、オートメーションは自動的にレコーディングされます。鉛筆ツールを使用してオートメーションを書き込むことも可能です。

7.3 Sidechaining

GUITAR RIG 5 には新機能、Sidechaining を搭載しており、生成している音声とは別のシグナルでエフェクタのパラメーターをコントロールします(例、コンプレッサーの圧縮率をコントロールする等)。

元々ラジオ DJ が曲の再生中にしゃべる為に発展した機能で、入力音声は音楽のボリュームをリミット処理、または圧縮処理のきっかけとなります。その後サイドチェーンテクニックはスタジオエンジニアやプロデューサーの必需テクニックと発展しました。

Guitar RIG 5 の SideChaining コントロール機能は Modifier セクションの Envelope、LFO、Input Level と Stomp Compressor、Tube Compressor、DYNAMICS セクションの新規機能 Fast Comp に設置してあります。Sidechaining と Modifiers を併用することで通常のサイドチェーン機能の領域を超えることが可能となります。DAW のマニュアルを参照して Sidechaining の使用方法を確認してください。もちろん、SideChaining はスタンドアローンモードで使用することも可能ですが、DAW 内で使用する機会のほうが多いことすし、便利です。スタンドアローンで Sidechaining を使用する場合は、Audio and MIDI Settings で GUITAR RIG のサイドチェーン用インプットを設定してください。

8 オプション

Options タブには 2 つのエリアがあり、それらはコントローラー (**Controller**) アサインエリアと、アプリケーションの設定を行う環境設定 (**Preferences**) エリアとなります。

8.1 コントローラー



コントローラーアサインを管理するダイアログです。

このページで外部 MIDI コントローラーのアサイン設定と管理を行います。この作業はオーディオと MIDI の設定 (Audio and MIDI Settings...) で MIDI インターフェイスが起動しているか確認してから行ってください (セクション ↑ 10, [オーディオと MIDI の設定](#) 参照)。また正しい MIDI チャンネルを環境設定 (**Preferences**) タブで設定しているか確認してください (セクション ↑ 8.2, [環境設定 \(Preferences\)](#))。Guitar Rig 5 はアサイン内容とは関係なく MIDI プログラムチェンジメッセージ (MIDI Program Change messages) に反応し、プリセットリスト内のプリセットを切り替えます。

簡単なコントローラーアサインの方法

MIDI デバイスでノブをコントロールする一番の近道はメニューを使用することです。

1. コントロールするノブまたはフェーダーを右クリックします。



2. *Learn* を選択します。
3. 外部コントローラーを操作します。すると、パラメーターに瞬時にリンクします。新規コントローラーを追加したことを告げるメッセージが表示されます。GUITAR RIG キーボードショートカットと MIDI メッセージに変化はおきません。同じメニューでアサインしたコントローラーを全て削除することも可能です。

8.1.1 外部 MIDI コントローラーの設定

デバイスの各コントロール部 (ノブ、フェーダー等)はコントローラー (Controller) リストで設定することが可能です。この設定は一度行えば完了し、Controller は全てのプリセットに有効となります。サイドキックのオプションページのコントローラー (Controller) タブを選択しているか確認してから行ってください。新規 MIDI コントローラーを追加するには以下のステップを行ってください。

1. サイドキックの下にある [Add Controller](#) ボタンをクリックして新規コントローラーエントリーを追加します。名称部をダブルクリックして名称を変更してください。
2. デバイスとコントローラーエントリーをリンクさせるには、[Learn](#) ボタンをクリックし、リンクさせるノブまたはフェーダー等を動かします。ボタンの右に MIDI コードが表示され、[Learn](#) ボタンが解除されます。キーボードショートカットのアサイン方法も同様の手順で行ってください。

コントローラーをリンクさせているデバイスを変更するには、[Learn](#) をもう一度クリックし、変更先のノブ/フェーダー等を操作します。

重要: MIDI フットスイッチを押している間だけ “on” になる製品を使用している場合は、この性質がアサインしたパラメータにも認識されます。この性質を変更する場合は、各コントローラのメニュー内にある、[Toggle Mode](#) モードを起動します。

コントローラーの削除

Controller リストのエントリを削除するには、エントリをクリック選択してオレンジにハイライト表示させます。その後 サイドキック の下の [Delete Controller](#) ボタンをクリックします。

8.1.2 コントローラーへの機能のアサイン

各コントローラーインプットは同時に異なる GUITAR RIG の機能をトリガー可能です。アサイン内容は Controller リストエントリ以下で表示されます。

1. GUITAR RIG の機能をコントローラにアサインするには、白いヘッドラインバーをラック上のアサイン先とする部分 (ノブ、ボタン、フェーダー等) にドラッグします。
2. ドラッグしている間、マウスポインターがどこにアサインしようとしているか示します。 **No Entry** と表示されている部分にアサインすることはできません。
3. アサインが完了すると、**Controller** リスト上に追加表示されます。同様に各アサインを続けて行います。



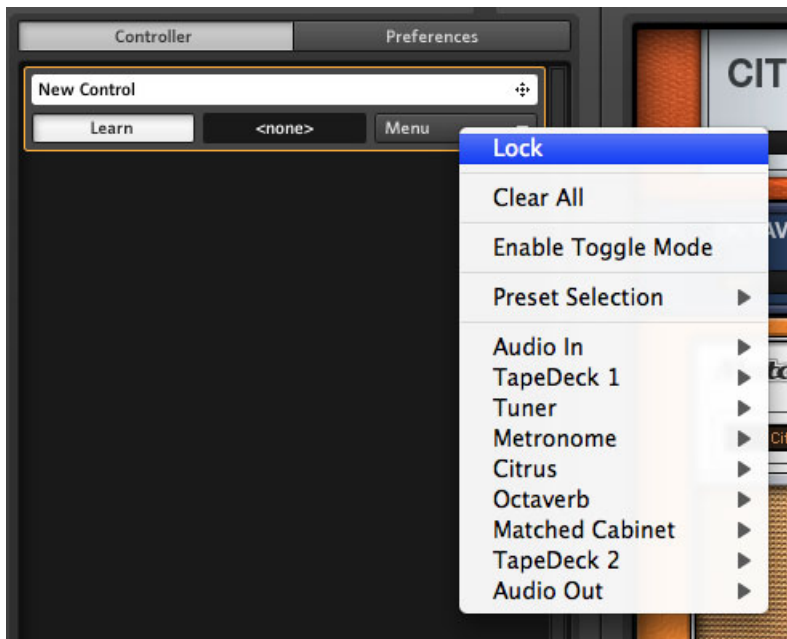
コントローラーをアサインします。

アサインの設定と削除

- アサインを一時的に取りやめる場合は、左側のチェックを外します。
- アサインの削除を行うには右にある **x** をクリックします。
- 指定したコントローラーの全アサイン設定を削除するには、Menu ボタンをクリックし、*Clear All* を選択します。
- コントローラーのアサイン機能にマッピングされたインプット値を調整するには左右の括弧の部分をクリック、ドラッグして調節します。
- 左括弧でマッピングの最低値を設定 (MIDI 値 0) し、右括弧でマッピングの最高値 (MIDI 値 127) を設定します。
- スイッチはオンオフ情報のみを扱うので、この括弧で実際のノブの位置と比べて調整するのに使用することも可能です。
- 左右の括弧を逆転することでマッピング値を反転し、コントローラーを下げることでノブを上げる設定を行うことも可能です。

メニューを使用した各機能のアサイン方法

コントローラーのアサインはドラッグドロップ操作による方法だけでなく、**Menu** ボタンを使用してメニューからアサインを行うことも可能です。**Menu** ボタンをクリックしてカテゴリ内で機能を選択しアサインしてください。



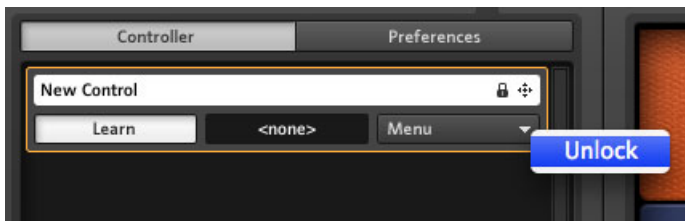
コントローラーメニューです。

Menu でラックモジュール上に表示されない部分のアサインを行うことが可能です (例、プリセットの切り替え)。

グローバルアサイン

デフォルトでは全てのアサインは各プリセットごとで保存されるので、プリセットの変更の際にアサイン内容も切り替わります。プリセットを切り替えても引き続き使用したいアサインがある場合は、グローバルアサインを使用します。一般的な使用例として例を挙げると、**Sound Selection - Previous / Next** をコントローラーにアサインし、プリセットの切り替えを行う、といったことが可能です。

コントローラーのアサインをグローバルにする場合は (アサインを全プリセットで共用する場合は)、**Menu** ボタンをクリックし、**Lock** (錠アイコン) を選択します。



コントローラーをアンロックしています。

コントローラーのロックを解除すると、アサインの追加と削除が行えます。

8.1.3 外部 MIDI コントローラとバーチャル Rig Kontrol をリンクする

Virtual Rig Kontrol は GUITAR RIG 5 に完全対応しており、多数のプリセットの各アサイン用機能と特に Live ビューで有効な全アサインの簡易表示機能を備えています。外部 MIDI コントローラが類似した各コントロール部を備えている場合は、Virtual Rig Kontrol にマッピングを行い、代わりに後者を用いて機能をアサインします。

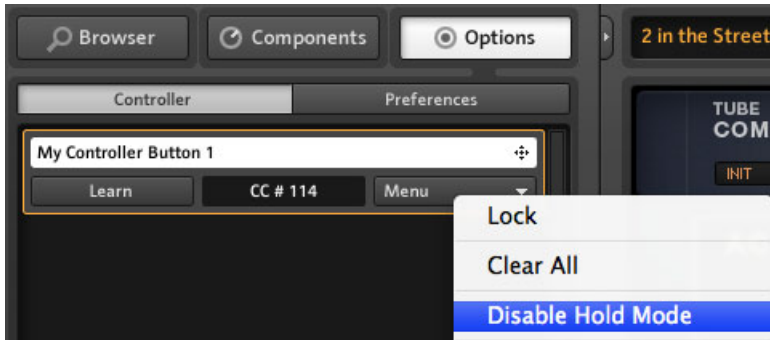
コントローラインプットにノブとペダルをリンクすることで、その他の機能と同様に機能します。コントローラをドラッグし、Virtual Rig Kontrol のコントロールのボタンにドラッグ、ドロップするとリンクします。このボタンにアサインした全機能はリンクしたコントローラインプットによって制御可能となります。Virtual Rig Kontrol への機能のアサインは各コントロールの上下にあるボックスをラック内のノブかスイッチにドラッグします。セクション [↑ 6.2, Rig Kontrol への機能のアサイン](#) を参照してください。

8.1.4 MIDI コントローラーと Rig Kontrol コントロール用 ホールドモード

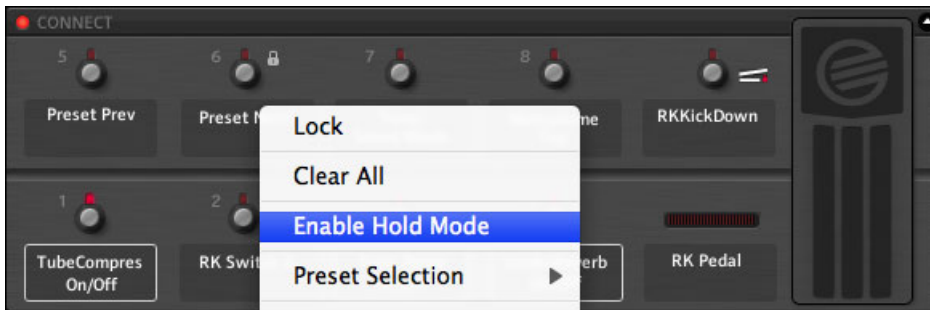
スイッチの性質は基本的に 2 通りあります。

- 最も一般的な性質はスイッチを使用するごとに オンの状態、オフの状態となるタイプです。
- もう一つは一時的に機能するタイプです。このタイプはスイッチを押し続けている間はオンの状態となり、押すのをやめるとオフの状態に戻ります。このタイプはエフェクトを一時的に使用する際に便利です。

Guitar RIG 5 では各コントローラーインプットをメニューで“Hold モード”に設定することが可能です。Virtual Rig Kontrol の各ラベルを右クリック、または MIDI コントローラーリストの各エントリーのメニューをクリックしてください。



MIDI コントローラーの Hold モードを無効にしています。



Virtual Rig Kontrol の Hold モードを起動しています。

接続しているハードウェアによって Hold モードの性質が異なります。

- デフォルトでは、Rig Kontrol のスイッチを使用するたびに オン、オフの状態に切り替わります。 Hold モードを起動することでこのスイッチが一時的に機能するスイッチとなります。
- 殆どの MIDI コントローラーのスイッチは Rig Kontrol のスイッチと同様に機能します。 同じように機能しない場合は、それぞれの状態を解除するのに 2 回スイッチを使用する必要がある場合があり、この場合、Hold モードは使用しないほうがよいでしょう。
- MIDI コントローラーの一時的に機能する (Momentary スイッチと呼びます) スイッチは Hold モードを起動している状態で機能します。 殆どの場合、Hold モードを解除することでもう一方のモードに切り替わります。

8.2 環境設定 (Preferences)

Options タブの Preferences をクリックして GUITAR RIG 5 を設定します。



Preferences メニューです。

設定内容は以下となっています。

- **Window Height:** このコントロールで、GUITAR RIG 5 のウィンドウのサイズを設定することができます。サイズは小・中・大にすることができます (*Small*, *Medium* または *Large*)。ピクセルによる寸法は (カッコ内の数字) 使用しているモニターの解像度によって異なります。
- **MIDI Channel:** GUITAR RIG が受信する MIDI メッセージ用に使用するチャンネルを設定します。全てのチャンネルで受信する場合は、*Omni* を選択します。

- **MIDI Learn Popup Window:** 各 MIDI 割り当ての後、MIDI ラーン・ウィンドウを表示させるか表示させないかを切り替えます。
- **Show Help Hints:** コントロール各部をマウスで指した場合に解説となるポップアップを表示させるか/させないかを選択します。
- **Scan For New Presets:** プリセットデータベースをアップデートします。手動でファイルをプリセットフォルダにコピーした場合、または KORE2 を使用して新規プリセットを作成した場合に使用します。
- **Import Guitar Rig 4 User Rack Presets:** GUITAR RIG 4 でのユーザー設定内容をまとめてインポートするにはこのオプションを選択します。
- **Virtual Rig Kontrol Style:** 銀色の RIG KONTROL 2 を使用している場合の、Virtual Rig Kontrol の見た目を変更します。
- **Rig Kontrol 1:** 青い RIG KONTROL 1 の互換モードを起動します。
- **Rig Kontrol Pedal Parameter Mode:** プリセットをロードしたときのペダルとアサインしたパラメータの初期設定値をコントロールします。モードは Pedal Mode または Preset Mode となります。
- **Rig Kontrol Pedal Calibration:** RIG KONTROL 機能が機能しない場合は、Reset をクリックし、以下のリキャリブレーション作業を行ってください。
- **RIG KONTROL Ext. Pedals Calibration:** RIG KONTROL に接続した外部ペダルがうまく動作しない場合は、Reset をクリックしてペダルの動きを再認知させてください
- **Rig Kontrol 3 Ext. Pedal 1/2 Mode:** このメニューで Rig Kontrol を異なるタイプの外部ペダルまたはフットスイッチ用に調節します。使用しているペダル/フットスイッチの資料を参照して正しい設定方法を確認してください。うまくいかない場合は他の設定を試してください。

8.2.1 Rig Kontrol 1 サポート

初期の Rig Kontrol を Guitar RIG 5 の操作に使用することも可能ですが、無論オーディオインプットチャンネルは一つしかない状態となります。2 つ目のチャンネルではユニットのコントロールシグナルを伝達するので使用することはできません。Rig Kontrol 1 の互換適応を設定するには、SideKick の **Options** ペインから **Preferences** に進んでください。

1. **Rig Kontrol 1** とある部分でドロップダウンメニューを表示してください。
2. Rig Kontrol がコントロールシグナルを送信するチャンネルを選択してください (**Left** または **Right**)。

グローバルヘッダのチャンネルボタンが青く点灯することで Rig Kontrol 1 がコントロールシグナルを送信、そのチャンネルを通常使用することができなくなります。



Rig Kontrol によって左チャンネルをブロックした状態です。

9 メニューバー

GUITAR RIG 5 では一度設定を終えるとその後の設定をメニュー Menu バーで行うことは殆ど必要ありません。殆どの機能は以上で解説したように簡単なアクセス方法があります。"Audio and MIDI settings..."を設定する場合はこのメニューバーを使用します。スタンドアローンモードの場合 GUITAR RIG 5 資料は Help メニューから閲覧することが可能です。

9.1 File (ファイル)

New Sound (新規サウンド)

空の新規プリセットを作成します。名称を入力し、[Save](#) を押してラックに任意のコンポーネントを挿入してください。

Save Sound (サウンドの保存)

プリセットブラウザで [Save](#) をクリックするのと同じです。現在ロードしているプリセットの変更内容を保存します。

Save Sound As...(別のサウンドとして保存)

プリセットブラウザで [Save as...](#) をクリックするのと同じです。現在のラックを新規プリセットとして保存します。

Import (インポート)

GUITAR RIG のプリセットをプリセットブラウザ (Preset Browser) にインポートします。このオプションで GUITAR RIG 3 のバンクと、GUITAR RIG 4 と GUITAR RIG 5 ラックサウンドをブラウズすることが可能となります。簡単にインポートするにはブラウザのプリセットリストに直接ファイルをドラッグアンドドロップします。

Audio and MIDI Settings...(オーディオと MIDI の設定)

GUITAR RIG 5 スタンドアローンのオーディオと MIDI を設定する場合は、[セクション ↑ 10, オーディオと MIDI の設定](#) で詳細を確認してください。

Exit (終了)

アプリケーションを終了します。

9.2 Edit (編集)

Undo

編集内容を一段階前に戻す機能で、ラックを誤って削除した場合等に活用します。

Redo

編集内容をアンドゥする前の状態に戻します。

Cut / Copy / Paste / Delete / Select All (カット/コピー/ペースト/デリート/全選択)

これらは現在編集している内容の実際の各編集コマンドで、それらはラックモジュールのプリセットリストの *Copy* と *paste*、*select all* または *delete* 等の作業に使用します。各コマンドの実行は最後にクリックしたユーザーインターフェイス内のエリア内で行われます。

9.3 View (ビュー)

Hide / Show Hints (ヒントの表示/非表示)

[Preferences](#) のオプションと同様に機能します。マウスでコントロール部を指した場合にヒントを表示するか非表示にするか設定します。

Full Screen (フルスクリーン)

Live ビューで有効なフルスクリーンモードを起動して内容を最大表示します。ESC または F4 を押して通常表示モードに戻ります。

Hide/Show SideKick (SideKick の表示/非表示)

GUITAR RIG 5 ユーザーインターフェイスの左エリア (プリセットブラウザ、コンポーネントブラウザ、オプションを表示する部分) を表示、または非表示します。

Hide/Show Live View (Live ビューの表示/非表示)

LIVE ボタンを押すのと同様です。ここで Live ビューを有効/無効にします。

Hide / Show Rig Kontrol (Rig Kontrol の表示/非表示)

Virtual Rig Kontrol ボタンを押すのと同様です。Virtual Rig Kontrol を表示/非表示します。

9.4 Help (ヘルプ)

Launch Service Center...(サービスセンターを起動...)

Native Instruments サービスセンターを起動し、製品起動やアップデートのダウンロードを行います。詳細に関してはセットアップガイド参照してください。

Activate Guitar Rig 4... (Guitar Rig 4 の起動)

Native Instruments サービスセンターを起動し、製品アクティベーションを行います。

Open Manual... (マニュアルを開く)

各国語に対応したマニュアルをここから開きます。

Visit Guitar Rig 4 on the web... (Guitar Rig 4 サイト)

GUITAR RIG 5 ウェブサイトへのブックマークで、そこで製品に関する各情報を確認することが可能です。

Visit the Knowledge Base... (ナレッジベース)

この便利なブックマークでナレッジベース (Knowledge Base) を開き、GUITAR RIG 5 に関するトラブルシューティング情報や技術的な情報を共有します。

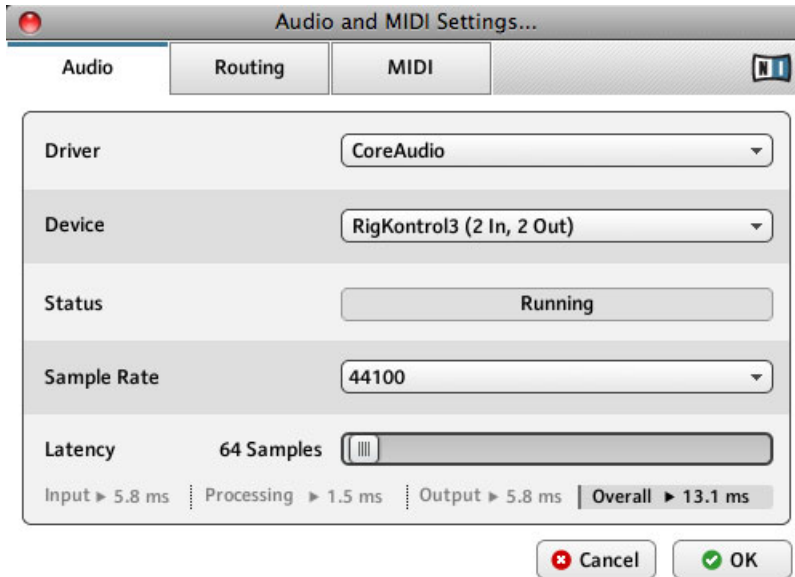
About Guitar Rig 5 (Guitar Rig 5 について)

About-スクリーンを開き、ソフトウェアのバージョン、レジストレーション番号、GUITAR RIG 5 の開発に携わったチームの各氏名を確認することができます。

10 オーディオと MIDI の設定

このセクションでは GUITAR RIG の Audio と MIDI セッティングについて解説します。

10.1 Audio (オーディオ)



Audio and MIDI Settings ダイアログです。

Driver (ドライバ)

使用しているオーディオインターフェイスに対応したドライバを選択します。ASIO (Windows) / CoreAudio (Mac OS X) を使用することを推奨します。

Device (デバイス)

リストからオーディオデバイスを選択します。表示されない場合は、オーディオデバイスが接続してあるか、対応するドライバが正常にインストールしてあるか確認してください。

Status (ステータス)

選択したオーディオインターフェイスの現在の状況を表示します (Running と表示されていれば正常に機能しています)。Stopped と表示されている場合は、使用しているオーディオインターフェイスの資料を参照してください。オーディオデバイスが正確に接続してあるか確認し、対応するドライバが正常にインストールしてあるか確認してください。

Sample Rate (サンプルレート)

オーディオ生成用サンプルレート g を選択します (一般的には 44100 Hz を使用します)。高いサンプルレートで高品質のサウンドを生成することが可能ですが、高い CPU パワーが必要となります。

Latency (レイテンシー)

レイテンシー (Latency) はノートを演奏してから実際に発音するまでの時間です。この時間はデータ伝達とオーディオ生成によって生じます。レイテンシーは各設定値を使用して調整可能ですが、この設定値を低くするほど、音声に支障が生じることが多くなります。これらは全て使用しているコンピュータの処理能力とオーディオドライバの品質によって異なります。オーディオインターフェイスの資料を必ず確認して適切な設定を行ってください。

▶ Windows コンピュータでは [ASIO Config](#) ボタンをクリックしてレイテンシーを調節してください。ボタンをクリックするとドライバの設定ウィンドウが表示されます。[ASIO Config](#)

▶ Mac OS X ではレイテンシーの調節は直接オーディオと MIDI の設定(Audio and MIDI Settings)で行います。Latency (レイテンシー) スライダーを使用して最適な設定値にしてください。調整しながら演奏し、サウンドに支障が出ないか確認してください。サウンドに問題がある場合はレイテンシーが低すぎます。

レイテンシー値はサンプル単位で表示され、その単位を時間に変更することは簡単です。計算はサンプル数をサンプルレートで割ることでレイテンシーを秒単位に変換してください。3つの大きなレイテンシー設定値と対応する秒単位の表示が [Audio and MIDI settings...](#) ウィンドウ内で自動測定され、レイテンシーをミリ秒単位で表示します。



多くの場合内蔵バッファサイズをミリ秒単位で表示しており、この値は実際のリアルタイムレイテンシーなので値が高い場合があります。

Routing (ルーティング)

インプットチャンネルとアウトプットチャンネルを反転させる為にマルチチャンネル用特殊ルーティング設定を行う場合、または新規 SideChaining 機能を使用する場合はここを使用します。左の項目欄では使用しているオーディオインターフェイスの有効なチャンネルを表示します。右の欄のエントリーが実際のメニューです。そこをクリックすることで、GUITAR RIG 5 の左右チャンネルをオーディオインターフェイスの各チャンネルにアサインすることが可能です。この設定はインプット、アウトプットで個別に設定を行うことが可能です。ルーティング (Routing) テーブルの設定を間違えると、音声が聞こえなくなる場合があります。

MIDI

左の項目欄では有効な全ての MIDI デバイス を表示しており、Input と Output で分類されています。右側のエントリーはメニューです。これをクリックしてオン/オフ設定を行います。GUITAR RIG 5 をコントロールする為の全ての機器は Input で On の状態にしている必要があります。

11 キーボードショートカット

以下は GUITAR RIG で使用可能なキーボードショートカットのリストです。これらはシステムで使用する基本的なショートカットや、異なる画面に切り替える為のショートカット等となっています。キーボードショートカットを用いてマウスを使用する代わりにコンピュータのキーボードを使用することで素早くコマンドを実行することが可能です。



ポータブルコンピュータを使用している場合は、ショートカット用のキーボードを押す前に Fn キーを押しておく必要があります(例、Fn-Control-F1)。

Type	Command	Windows	Mac OS X
File	New Preset	[Ctrl]+[N]	[Cmd]+[N]
File	Save Preset	[Ctrl]+[S]	[Cmd]+[S]
File	Save As Preset	[Ctrl]+[Shift]+[S]	[Cmd]+[Shift]+[S]
File	Quit	[Alt]+[F4]	[Cmd]+[Q]
Edit	Undo	[Ctrl]+[Z]	[Cmd]+[Z]
Edit	Redo	[Ctrl]+[Y]	[Cmd]+[Shift]+[Z]
Edit	Cut	[Ctrl]+[X]	[Cmd]+[X]
Edit	Copy	[Ctrl]+[C]	[Cmd]+[C]
Edit	Paste	[Ctrl]+[V]	[Cmd]+[V]
Edit	Delete	[Del]	[Delete]
Edit	Select All	[Ctrl]+[A]	[Cmd]+[A]
View	Hide/Show Hints	[Ctrl]+[I]	[Cmd]+[I]
View	Full Screen	[F4]	[F4]
View	Hide/Show RigKontrol	[F3]	[F3]
View	Hide/Show SideKick	[F2]	[F2]
View	Hide/Show Live View	[F1]	[F1]